

学科 <専攻>	トータルビューティー学科	担当者	丸山陽子	木2-3
科目名	フェイシャル実習1	必修・選択	必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目			
1. 授業の到達目的と概要				
◆到達目標	お客様の状態に合ったフェイシャルトリートメントを行えるように基礎的な技術やカウンセリングを身に付ける。コース目的や効果、禁忌事項、化粧品の成分など理論面も理解する。エステティシャンセンター試験の合格を目指す。			
◆概要	フェイシャルコースの基本的な流れ「カウンセリング・肌診断、クレンジング、ディープクレンジング、機器トリートメント、マッサージ、パック、整肌」を、段階を経て習得し、最終的にはお客様に合わせて行えるようにする。理論面の口頭試問も段階を追って入れていく。デモンストレーション→実践→反復練習→チェックを項目ごとに適宜行う。 衛生消毒やクライアントケアなどのサロンワークを実践を通して学ぶ。			
2. 授業内容 (週単位で記入)				
1-2	当番の仕事について ワゴンの準備説明 片付け方 スチームタオルの作り方。身だしなみチェック 挨拶用語 モデル誘導方法 ターバンの巻き方 相モデルで実践			
3-4	ワゴンチェック モデル誘導方法 ターバンの巻き方 相モデルで実践 FAコースの流れ、顔・手の名称の説明、デモ:Pクレ・Bクレ・拭き取り・スチーム人形で練習			
5-6	人形→相モデル(出来れば) <b>宿題 クレンジング手順</b> Pクレ・Bクレ・拭き取り・スチームタオル(仕上げ) クレンジング化粧品説明			
7-8	クレンジング手順チェック 人形で手順確認 相モデル:Pクレ・Bクレ・拭き取り・スチームタオル・仕上げ クレ・・・Mオイルで練習			
9-10	機器説明・パターデモ→相モ:クレンジング(15分)・パター・仕上げ 片付け・消毒の実践			
11-12	ハンド洗顔説明 クレンジングチェック→パター(リンパ節・目的効果言いながら)→ハンド洗顔→仕上げ			
13-14	パター理論小テスト クレンジング・拭き残しチェック→パター→ハンド洗顔→仕上げ			
15-16	<b>中間試験</b> 筆記テスト(パター理論)・身だしなみチェック・誘導・Pクレ・Bクレ・拭き取り・スチームタオル・チェック・ハンド洗顔・パター・スチームタオル・仕上げ			
17-18	吸引・スチーマー説明・デモ 相モ:クレンジング→スチーマー・吸引→パター 【試験結果の確認をしながら】			
19-20	マッサージデモ→人形で練習 【口頭試問:吸引・スチーマーの効果、目的】 相モ:吸引・拭き取り・マッサージ実践・スチームタオル・仕上げ <b>準備 ノーマイクで</b>			
21-22	クレンジング・吸引・マッサージ・仕上げ 【マッサージ手順確認】			
23-24	酵素デモ クレンジング・酵素・マッサージ・仕上げ			
25-26	クレンジング・酵素・マッサージ・仕上げ <b>宿題 マッサージ 肌タイプまとめ</b> マッサージ手順チェック 効果目的覚える クレンジング10分			
27-28	ブラシ洗顔デモ クレンジング・ブラシ洗顔・パター・マッサージ・口頭試問・仕上げ			
29-30	クレンジング・ブラシ洗顔・パター・マッサージ・口頭試問・仕上げ(試験同様に行う)			
31-32	筆記テスト(すべての目的効果) クレンジング・ハンド洗顔・パター・マッサージ口頭試問・仕上げ(試験同様に行う)			
33-34	<b>期末試験</b> クレンジング・ハンド洗顔・パター・マッサージ・仕上げ 筆記テスト、口頭試問(すべての目的効果)			

### 3. 履修上の注意

事後学習として授業の復習を必ず行う(宿題あり)  
次回の授業で出来なければ自主練習(補講)をする。

### 4. 使用教材(テキスト等)

エステティシヤンのためのフェイシャル実技理論 <日本エステティック業協会>  
機器手順プリント、フェイシャルカルテ  
実習備品・化粧品一式、エステ機器(ラルジュ)

### 5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%
- ・中間・期末試験及び検定取得状況 70%

### 6. その他

12月上旬 エステティシヤンセンター試験 実技試験

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	藤原	
科目名	ボディケア実習1		必修・選択	必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	32コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	前期
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	お客様の状態に合ったトリートメントを行えるように、ボディマッサージの基礎的な技術やボディカウンセリングを身に付ける。ボディトリートメントを行う上で必要な基本主義の目的や効果、禁忌事項など理論面も理解する。				
◆概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボディケアを行うに必要なエステティシヤンの心得を理解する。</li> <li>・エステティシヤンに必要な衛生消毒やクライアントケアを、実践できるようにする。</li> <li>・ボディマッサージに必要な手指の使い方、体重移動などの基本動作の重要性を学ぶ。</li> <li>・ボディマッサージの基本手技を身に付けるため毎授業デモンストレーションを行い実践する。実習後半にはお客様の状態にあったトリートメントを行えるような技術を目指す。また、後期のボディ実習につなげる。</li> </ul>				
<b>2. 授業内容 (週単位で記入)</b>					
第1週	目的を知る。使用方法の説明 手指の名称、手指消毒の説明、ベッドへの誘導練習 オイル塗布～三大軽擦 スチームタオルのふき取り				
第2週	強擦～P34の13まで 4指によるつまみ GWの課題あり				
第3週	課題の手技をチェック P35の⑭～㉑まで				
第4週	下肢の反復練習 (揉捏法、追従性揉捏法、打法、圧迫のテクニック一人一人出来ていないところを修正)				
第5週	背中の手技 下肢裏面の復習				
第6週	腰背部 下肢からのマッサージの流れを意識して動けるよう立ち位置や動きの確認				
第7週	中間試験の流れで行う 誘導～消毒～両下肢裏面・ふき取り～腰背部～ふき取り (ふき取りチェックを行い スチームタオルの当て方テクニックを意識する)				
第8週	<b>中間試験</b> ボディー裏面 技術試験 時間40分で設定 一つ一つの手技のチェック(密着度、リズム、体重移動など) 一人一人フィードバック				
第9週	下肢(表面)				
第10週	上肢 6手技名や特徴や効果を口頭説明できるようトリートメントしながら練習				
第11週	腹部 トリートメント中に筋肉名を口頭試問しスムーズに答えられるよう練習				
第12週	下肢背面～背中～下肢表面～上肢～腹部まで通して行う 夏休みの課題 (主要筋肉名を覚えてくる)				
第13週	Bodyカルテの書き方 コンサルテーション ボディチェック 苦手な個所のマッサージの反復練習				

第14週	コンサルテーション 体の悩みやそれに対する原因を探る。又、要望を聞き取り、マッサージのプランを立てる（宿題の筋肉名を口頭試問で確認） 苦手な個所のマッサージの反復練習
第15週	コンサルテーション 体の悩みやそれに対する原因を探る。又、要望を聞き取り、マッサージのプランを立てる（コンサルテーション中の姿勢、声のトーン、表情を意識）
第16週	<b>期末テスト</b> 下肢背面～背中～下肢表面～上肢～腹部まで コンサルテーションの姿勢、言葉使い、表情などを試験に組み込む。 6手技の特徴目的、筋肉名、ほか口頭試問を入れる
<b>3. 履修上の注意</b>	
事後学習として授業の手技範囲の復習を行う 授業前には手技の流れの確認をしておく	
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b>	
AEAテキスト ボディ実技理論 タオル、ティッシュ、コットンなどの備品 マッサージオイル等の粧材	
<b>5. 単位認定評価方法</b>	
評価基準: 絶対評価 ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・中間・期末試験状況(実技、筆記) 70%	
<b>6. その他</b>	
12月上旬 エステティシャンセンター試験 実技試験 担当者実務経験: エステティックサロンでエステティシャンとして実務経験あり(日本エステティック業協会認定講師)	

学科 〈専攻〉	トータルビューティー学科	担当者	小原 美津保		
科目名	ネイルケア実習	必修・選択(注記)	必修	水1-2	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	前期
企業連携科目	○	実務経験のある教員等による授業科目			○

1. 授業の到達目的と概要

- ◆到達目標 1年生の10月にはネイル技能検定試験3級に合格するために、ネイルの基本的な知識と技能を身に付ける。  
ネイルの基本のネイルケアの大切さや、爪のトラブル異常もしっかり理解する。
- ◆概要
  - ・爪の構造や名称を理解し、ネイルケアに必要な知識や道具を覚える。
  - ・ネイルケアの基本の爪の形や形成を理解し5つの形を削れるようにトレーニングハンドを使い練習し、相モデルで実践する。
  - ・プッシャーやニッパーの使い方を覚え、安全なネイルケアを学ぶ。
  - ・ネイルケア後の綺麗な爪に、色むらなく綺麗なカラーリングができる様塗り方を学び、ジェル検定初級や2級試験につなげる。

2. 授業内容

1-2	自己紹介。ネイルケアに必要な道具の配布をし名称を覚え、目的や使用方法の説明、テールセッティング、トレーニングハンドの使い方、爪の形成 ファイルの持ち方など
3-4	爪の形成 デモ 実技 スクエア、スクエオフ
5-6	スクエアオフ ラウンド デモ 実技 GWの課題・トレーニングハンドに爪の形成
7-8	ラウンドの復習 オーバル ポイント デモ 実技
9-10	爪の形成5種復習 ネイルケア手順の説明 ウッドスティックの削り方作成
11-12	ネイルケアデモ 実技 プッシュバックとプッシュアップについてしっかり理解し自分の爪に実践
13-14	プッシャーとニッパーの使い方を理解し、自分の爪に実践 理解できたら相モデルで練習
15-16	中間評価 爪の形成5種(25分) ペーパーテスト(20分) 答え合わせ ネイルケア相モデル練習
17-18	相モデルでネイルケア練習 できていない所の再確認
19-20	ネイルケア相モデル練習
21-22	ネイルケア相モデル練習
23-24	カラーリングの説明&デモ (ポリッシュの使い方、塗り方、片付け方法) 自分の手にカラーリング実技
25-26	相モデルでカラーリング サイドライン・キューティクル周りのはみ出し修正の仕方とカラーオフの仕方
27-28	ネイルアートのデモ(絵の具のフラットアート 5枚花) 絵の具の解き方・筆の使い方・描き方など ネイルチップに練習 夏休み課題
29-30	ネイルケア復習、相モデル練習 夏休みの課題チェックなど
31-32	3級試験内容の練習 相モデルでネイルケアとカラーリングの練習
33-34	期末評価 (模擬試験で評価するなら、通常授業)

3. 履修上の注意

安全なネイルケアをするために、宿題などの課題をしっかり行う

#### 4. 使用教材(テキスト等)

- ・JNAテクニカルベーシック
- ・ネイル道具一式

#### 5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)15%
- ・授業内評価 25% ・中間・期末試験状況 50%

※目標検定を取得した場合は、C評価以上が付く(出席不足を除く)

#### 6. その他

担当者実務経験: 現在ネイルサロン経営者であり、日本ネイリスト協会における本部認定講師の資格を有するネイリストである。多くのお客様への施術経験より爪の異常やトラブルの事例などを交えて安全で適切なネイルケアの重要性と技術を指導する科目である。

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	山田 佳代子	
科目名	ベーシックメイクアップ		必修・選択(注記)	必修	金1-2
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数 (予定)	34コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標 後期に受験するシュウ ウエムラ メイクアップ技術検定試験の合格。

◆概要

- ・手指消毒、スキンケアを行った後、ベースメイクからフルメイクを仕上げます。
- ・検定テキストに沿ったシュウウエムラの正確な技術を行う。
- ・各テクニックの目的をしっかりと意識し、効果的な技術を行う。
- ・添え手の使用やモデルの目線の誘導、必要な声掛けなど、モデルへの配慮を忘れない。
- ・シュウウエムラのメイク技術者として適切な立ち振る舞いをする。

2. 授業内容 (コマ数で記入)

1-2	・自己紹介・道具の説明・名前付け・メイクアップ技術検定試験の説明 ・P23～基本知識 ・P29～スキンケアコンセプト ・P30～スキンケアテクニック ・P46～メイクアップコンセプト
3-4	・道具のセッティング ・化粧品の体感(セルフメイク)
5-6	・スキンケアテクニック(デモ) ・リップクレンジング・アイメイククレンジング・ベースクレンジング・乳化・拭き取り ・実習(ウイッグ) ・小テスト
7-8	・スキンケアテクニック(デモ)・リップクレンジング ・アイメイククレンジング ・ベースクレンジング ・乳化 ・拭き取り ・ローショントーンング ・クリームトーンング ・実習(ウイッグ) ・小テスト
9-10	・同上
11-12	・同上 ・実習(相モデル)・・・1回通した後→各自トレーニング→15分計る ・小テスト
13-14	・同上
15-16	・同上
17-18	<b>中間試験</b> ・スキンケアテクニック(15分) ・筆記試験(20分) ・メイクアップコンセプト板書
19-20	・メイクアップテクニック(デモ) ・アンダーベース ・ファンデーション ・フェースパウダー ・リップ ・実習(相モデル) ・小テスト
21-22	・同上 ・アイシャドー ・アイライナー ・アイラッシュカーラー ・マスカラ ・実習(相モデル) ・小テスト
23-24	・同上
25-26	・同上 ・アイブロー ・チーク ・実習(相モデル) ・小テスト
27-28	・同上 ・実習(相モデル)・・・50分計る ・小テスト
29-30	・同上
31-32	・同上
33-34	<b>前期期末試験</b> ・メイクアップテクニック(50分) ・筆記試験(20分)

### 3. 履修上の注意

- ・事後学習として復習を行う。 ・授業開始前には手技の確認をしておく。
- ・小テストについては、スキンケアテクニックからテキスト順に出題する。出題範囲は前の週に告知する。尚、時間に余裕があった際に実施する事とする。

### 4. 使用教材(テキスト等)

- ・シュウウエムラメイクアップ技術検定試験テキスト
- ・メイク道具一式 ・タオル3本(白) ・テッシュ ・コットン ・ダッカードール ・ハサミ ・カッター

### 5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%
- ・中間・期末筆記試験状況 20% ・中間・期末試験状況 50%

### 6. その他

担当者実務経験: 大手化粧品メーカーでビューティーカウンセラーとして肌質、年齢、骨格など、それぞれのお客様に合わせたメイクアップの技術の経験を生かし、シュウウエムラのメイクアップ化粧品の特徴と適切な使用法、色、形、配置バランスなどシュウウエムラのメイク基礎を学ぶ科目である。現在はエステティックサロン経営者でもあり、シュウウエムラの認定講師でもある。



学科 <専攻>	トータルビューティー学科	担当者	北野 加奈子		
科目名	ヘアアレンジ1	必修・選択(注記)	必修	月3-4	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	前期後半
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	使用する用具や用語を覚え、アップスタイルの基本を習得する。				
◆概要	美容技術の基礎理論を理解し、実践につなげる。 1年次はバランスよっての印象の違いや、アレンジを覚え次年度の相モデル実習に備える。				
<b>2. 授業内容 (コマ数で記入)</b>					
1-2	ヘア実習で使用する用具を配布。用具の名称と使用目的。 基本のブロッキング・編み込み。				
3-4	編み込み(表・裏)。ロープ編み。フィッシュボーン等の編み実技。				
5-6	ピンの種類・留め方・ツイスト。ゴムの使い方。一束。 カールアイロン使用方法。内巻き・外巻き				
7-8	カールアイロン復習。シニヨン種類。作る位置での印象の違い。				
9-10	カール・編み込みアレンジスタイル				
11-12	期末試験練習				
13-14	期末試験練習				
15-16	期末試験練習				
17-18	<b>期末試験</b> 試験後、重ね夜会				
<b>3. 履修上の注意</b>					
用具の取り扱い(乱雑に扱わない) 苦手な部分は特に自習(復習)し反復練習をし克服する					
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b>					
アップスタイルの基本(テキスト) ヘア道具一式(ブラシ・コーム・ヘアピン・アイロンなど)					
<b>5. 単位認定評価方法</b>					
評価基準:絶対評価 ・出席による評価 10% ・授業への取り組み10% ・授業内評価20% ・中間・期末試験状況 60%					
<b>6. その他</b>					
担当者実務経験:現在美容室経営者であり、ブライダルヘアースタylistとして多くの現場経験よりヘアアレンジの基礎からアレンジを学ぶ科目である。					

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	藤原	
科目名	ネイルアート		必修・選択	選択	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期後半
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ネイリスト技能検定3級2級に必要なネイルケア、カラーリング、アートの技術を習得する。 ネイリスト技能検定3級の通し練習を行い検定合格を目指す				
◆概要	ネイル技能検定3級2級に必要なアートを徹底的に習得する。 カラー別のカラーリングを習得する				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	ポリッシュオフ 爪の形成 ラウンド 理論的に正しい形を覚え同じラウンドが作れるようにする チップスタンドでカラーリング アクリル絵の具によるフラワーアート 5枚花 (3級課題)				
第2週	チップスタンドでカラーリング アクリル絵の具によるフラワーアート 5枚花 (3級課題) 赤のベースに映える色の使い方、アクリル絵の具で透け、ムラがないアートの書き方。(理論を理解し実践)				
第3週	爪の形成～ネイルケア(相モデル)				
第4週	爪の形成～ネイルケア(相モデル)				
第5週	ネイルケアからカラーリング～花 実技練習 赤				
第6週	ネイルケアからカラーリング～花 実技練習 赤 ネイリスト技能検定3級筆記試験公式問題				
第7週					
第8週					
第9週	期末試験				
3. 履修上の注意					
相モデルで行う際の各自の爪の事前準備は宿題とする。 技術の習得を安定させるためにネイルチップへの課題練習を宿題とする(提出期限を次授業で提出が原則)					
4. 使用教材(テキスト等)					
JNAテクニカルシステムベーシック(NPO法人日本ネイリスト協会) ネイル道具一式					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・中間・期末試験 70%					
6. その他					
10月下旬 ネイリスト技能検定3級					

学科 ＜専攻＞	トータルビューティー学科	担当者	丸山陽子	木1
科目名	エステティック理論1	必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目			
1. 授業の到達目的と概要				
◆到達目標	エステティシャンに必要な基礎知識(エステティック概論・運動生理学・化粧品学)を身に付け、技術やアドバイスに活かせるようにする。 エステティシャンセンター試験、AEA上級エステティシャン試験の合格を目指す。			
◆概要	エステティック概論・・・エステティックの役割や資格の重要性について学ぶ 運動生理学・・・運動の効果と実際、ダイエットについて学ぶ 化粧品学・・・化粧品の効果効能使用方法などを学ぶ お客様の悩みや要望に応える技術やアドバイスが出来るようになるための知識を身に付ける。			
2. 授業内容 (週単位で記入)				
第1週	インフォメーション エステティック概論 エステティックとは、各国のエステティック			
第2週	エステティック概論 日本のエステティック			
第3週	エステティック概論テスト			
第4週	運動生理学 運動の必要性			
第5週	運動生理学 筋肉・呼吸・循環			
第6週	同上			
第7週	運動生理学 運動プログラム			
第8週	中間試験 運動生理学			
第9週	運動生理学 運動の実際			
第10週	化粧品学 化粧品の定義と役割			
第11週	同上			
第12週	化粧品学 基礎化粧品			
第13週	同上			
第14週	化粧品学 メイクアップ化粧品 ボディケア化粧品			
第15週	化粧品学 ボディケア化粧品 芳香化粧品			
第16週	化粧品学 化粧品の原料			
第17週	期末試験 化粧品学			
3. 履修上の注意				
事後学習として授業の復習を必ず行う(宿題あり)				
4. 使用教材(テキスト等)				
エステティシャンのためのエステティック概論・運動生理学・化粧品学＜日本エステティック業協会＞ 配付プリント パワーポイント資料				
5. 単位認定評価方法				
評価基準: 絶対評価				
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%				
・中間・期末試験及び検定取得状況 70%				
6. その他				

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	藤原	
科目名	エステティック理論2		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	16コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	前期前半
企業連携科目		実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	エステティックはお客様の体、肌、心に触れる高度な仕事だからこそ、専門的に学ぶことが必要であり、正しい知識と理論を身につける。1年次のエステティシャンセンター試験、2年次のAEA上級エステティシャン筆記試験の合格を目指す。				
◆概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エステティシャンに必要なマナー、サロン運営、業務について学ぶ。</li> <li>・エステティック業に直接関わる法律と内容、用語、重要性を理解し(エステティック業統一自主基準を理解)法令順守の意識と正しいエステティック業を営むための必要な知識を育てる。</li> <li>・栄養学では栄養素と食事と体、肌との関係を学び実践的にアドバイスできるよう知識を学ぶ。</li> </ul>				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	エステティック授業に必要な道具の配布 サロンマネジメント・・・エステティック業の役割・エステティシャンとは(身だしなみも含め)目指す検定について				
	サロンマネジメント・・・サロン運営・顧客管理・接客マナー				
第2週	関連法規・・・ エステティックと法律の関係 消費者契約、特定商取引				
	関連法規・・・ エステティックと法律の関係 クーリングオフ制度、個人情報保護法 不当景品類及び不当表示防止法				
第3週	関連法規・・・エステティシャンの仕事と法律の関係(医師法、薬剤師法、あん摩、栄養士法など) 化粧品に関する法律				
	関連法規・・・クレーム処理について、エステティック業の自主基準について				
第4週	中間テスト				
	栄養学・・・基礎知識 代謝の仕組み 三大栄養素				
第5週	栄養学・・・基礎知識 代謝の仕組み 三大栄養素				
	栄養学・・・基礎知識 ビタミン、ミネラル				
第6週	栄養学・・・基礎知識 ビタミン、ミネラル				
	栄養学・・・基礎代謝 摂取エネルギー 個人の算出法 栄養素6分類				
第7週	栄養学・・・食生活と健康 肥満 疲労 老化				
	栄養学・・・食生活と健康美				
第8週	栄養学・・・食生活と体 ダイエットに必要な栄養素、アドバイス				
	期末試験・・・栄養学				

### 3. 履修上の注意

事後学習として授業の手技範囲の復習を行う

### 4. 使用教材(テキスト等)

AEAテキスト サロンマネジメント 関連法規 栄養学

まとめプリント(栄養学)

エステティシャンセンター試験 筆記試験例題集<日本エステティック試験センター>

### 5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%

・中間・期末試験状況(実技、筆記) 70%

### 6. その他

担当者実務経験:エステティックサロンでエステティシャンとして実務経験あり(日本エステティック業協会認定講師)

2月中旬 エステティシャンセンター試験 筆記試験 2年次 9月上旬 AEA上級認定エステティシャン筆記試験

栄養学2章・3章においては実技の中で実践的に学び反復学習する

学科 ＜専攻＞	トータルビューティー学科		担当者	丸山陽子	金4
科目名	皮膚科学		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	エステティシャンに必要な皮膚についての基礎知識を身に付け、技術やコース設定、アドバイスに活かせるようにする。 エステティシャンセンター試験、AEA上級エステティシャン筆記試験の合格を目指す。				
◆概要	エステティックは、「人の皮膚を清潔にし若しくは美化し、体型を整え、または体重を減ずるための施術を行うこと」と定義されています。エステティシャンは人々の肌に触れ、肌の健康や美しさを追求する職業です。皮膚の構造や生理機能、トラブルやケアについて学び、お客様の悩みや要望に応える施術やアドバイスが出来るようにするための知識を身に付けます。				
<b>2. 授業内容 (週単位で記入)</b>					
第1週	1章皮膚の構造 皮膚とは～表皮 宿題 構造を覚える				
第2週	1章皮膚の構造 構造復習・構造図を書く～角化とターンオーバー				
第3週	1章皮膚の構造 構造テスト～真皮				
第4週	1章皮膚の構造 皮下組織～皮膚付属器				
第5週	1-2章 皮膚付属器(毛・爪除く)～皮膚の生理機能 保護作用				
第6週	2章 皮膚の生理機能 感覚作用				
第7週	3章 美しい肌のために 美肌とは ストレスと肌				
第8週	3章 美しい肌のために スキンホメオスタシスと肌～免疫系				
第9週	<b>中間試験</b>				
第10週	3章 美しい肌のために 内臓と肌・血液循環と肌栄養と肌・肌タイプ別スキンケア				
第11週	3-4章 肌タイプ別スキンケア～肌の老化とケア 老化肌とは				
第12週	4章 肌の老化とケア 老化現象				
第13週	4章 肌の老化とケア 老化現象 <i>宿題 肌タイプ別まとめ 化粧品、機器、アドバイス</i>				
第14週	5章 トラブル肌と皮膚疾患 敏感肌・ニキビ (他はまとめで確認)				
第15週	同上				
第16週	復習				
第17週	<b>期末試験</b> 筆記試験				
<b>3. 履修上の注意</b>					
事後学習として授業の復習を必ず行う(宿題あり)					
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b>					
エステティシャンのための皮膚科学 <日本エステティック業協会>					
<b>5. 単位認定評価方法</b>					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%					
・中間・期末試験及び検定取得状況 70%					
<b>6. その他</b>					

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	藤原	
科目名	基礎実技理論		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	16コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期前半
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	エステティック・ネイル・メイクの技術の習得には、正しい知識と基礎的実技理論が必要である。安全で適切な技術を習得するために、学術的裏付けをふまえて学び実技の習得につなげる。				
◆概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エステティシャンに必要な衛生消毒、救急法・美容脱毛学を学ぶ。</li> <li>・ネイリストに必要な爪の構造、皮膚学、生理解剖学、爪の病気、衛生消毒などの知識を身に付ける。</li> <li>・メイク・・・道具の手入れ、メイクの手順について論理的に学び理解する。</li> </ul>				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	ネイル道具の説明 (検定用シール貼付) ネイリストとしての心得				
	ネイルの歴史 ネイルの技術体系 構造と働き プリント				
第2週	爪の構造と働き ネイルの為の皮膚科学 構造と働き プリント				
	ネイルの為の解剖生理学 I 爪の病気とトラブル 構造と働き プリント				
第3週	爪の構造と働き プリント 消毒法 化粧品学P47～52				
	P52～56色彩理論 プロフェッショナリズム ネイルカウンセリング				
第4週	メイク・・・ハードフォーミュラーの削り方				
	美容脱毛学・脱毛実技理論				
第5週	美容脱毛学・脱毛実技理論				
	ネイル・・・ウッドスティックの削り方				
第6週	サロンでの救急法				
	サロンでの救急法				
第7週	メイク・・・ポイントメイク・形の理解(眉・チーク)				
	サロンでの衛生・消毒				
第8週	サロンでの衛生・消毒				
	期末試験 ネイリスト技能検定試験 サロンでの衛生消毒・救急法				

### 3. 履修上の注意

事後学習として毎授業の復習を行う

### 4. 使用教材(テキスト等)

AEAテキスト サロンでの衛生消毒・救急法・美容脱毛学・美容脱毛実技理論

JNAテクニカルシステムベーシック

shu uemura テキスト プリント

### 5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%

・中間・期末試験 70%

### 6. その他



学科コード	B1
-------	----

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	小林千尋	
科目名	キャリアプランニング1		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	MIT普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	希望する業種・職種で職を得るために、効果的で適正な就職活動を行うべく、実務的な準備(履歴書作成など)とキャリア教育(各種自己分析など)を通じて実践的なレベルを目指す。				
◆概要	自己分析を通じて自分のゴールを再度確認する。履歴書は自らの歴史と自分自身をPRするものなので、広義のとなる。また、実際の就職活動により密着した自己PRや仮の志望動機も作成してみる。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	「キャリア」とは、2年間の心構え、卒業生の内定先・就活について、「振り返り」				
第2週	ライフライン分析とキャリアパス				
第3週	「職業興味と職業適性」				
第4週	履歴書作成① 履歴書とは、履歴書左側を記入・作成				
第5週	履歴書作成② 履歴書右側を記入・作成 「ジョハリの窓」				
第6週	履歴書作成③ 「エゴグラム」 自己PR作成				
第7週	履歴書作成④ 自己PR作成				
第8週	履歴書作成⑤ 自己PR作成				
第9週	中間テスト 模擬履歴書の作成				
第10週	企業研究(求人票を使って)求められる人材とは				
第11週	履歴書作成⑥ 仮志望動機の作成				
第12週	履歴書作成⑦ 仮志望動機の作成				
第13週	履歴書作成⑧ 仮志望動機の作成				
第14週	一般教養とSPI				
第15週	一般教養とSPI				
第16週	一般教養とSPI				
第17週	期末テスト 履歴書の作成				
3. 履修上の注意					
筆記用具を持参					
4. 使用教材(テキスト等)					
プリント教材					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価OR相対評価					
絶対評価で中間・期末テスト、授業態度、出席状況、課題提出・内容					
6. その他					

学科 〈専攻〉	トータルビューティー学科		担当者	堀内 貴彦	
科目名	情報リテラシー1		必修・選択	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	演習	年次	1
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	タッチタイピングおよびWindows操作が仕事に支障ない程度にできる パソコンの基本的なトラブルシューティングができる マイクロソフトWORDでビジネス文書の作成ができる 日本情報処理検定協会主催の「ワープロ検定準2級」および「文書デザイン検定2級」以上の検定に合格する				
◆概要	ワープロ検定および文書デザイン検定の問題を解きながら、タイピングの基礎、Windows操作、Wordによる文書作成および基本的なトラブルシューティングを習得する。7月および10月に個々の習熟度に応じた級の検定を受験する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	タッチタイピングの基本および日本語文章入力 Windows、Wordの基本操作およびトラブルシューティング				
第2週	ワープロ検定3級程度の問題解法 個別問題演習				
第3週	ワープロ検定準2級程度の問題解法 個別問題演習				
第4週	ワープロ検定2級程度の問題解法 個別問題演習				
第5週	ワープロ検定準1級程度の問題解法 個別問題演習				
第6週	ワープロ検定1級程度の問題解法 個別問題演習				
第7週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第8週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第9週	中間試験 ワープロ検定準2級程度の問題				
第10週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第11週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第12週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第13週	問題演習およびワープロ検定				

第14週	文書デザイン検定3級および2級程度の問題解法 個別問題演習
第15週	文書デザイン検定2級程度の問題解法 個別問題演習
第16週	文書デザイン検定1級程度の問題解法 個別問題演習
第17週	期末試験 文書デザイン検定2級程度の問題
3. 履修上の注意	
<p>授業課題の提出あり(MITファイルサーバへ)  欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を次回の授業日までに提出する</p>	
4. 使用教材(テキスト等)	
<p>マイクロソフトWordを使用  授業配布プリント  検定過去問題のプリント</p>	
5. 単位認定評価方法	
<p>評価基準:  絶対評価を原則とする 出席10点、授業内評価(授業態度・課題提出状況)40点、  中間または期末試験評価40点、授業期間中の検定取得への取り組み10点 の100点満点 ※注</p>	
6. その他	
<p>※注 検定取得への取り組みについては上位級合格はもちろん、各自の到達度により評価する  また、各内容については、習熟状況により変更する場合がある</p>	

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	丸山陽子	
科目名	フェイシャル実習2		必修・選択	必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	カウンセリングや肌診断を学び、お客様に合わせたコース設定を行えるようにする。前期に続き、コース目的や効果、禁忌事項、化粧品成分など理論面も理解する。エステティシャンセンター試験の合格を目指す。				
◆概要	フェイシャルコースの基本的な流れ「カウンセリング・肌診断、クレンジング、ディープクレンジング、機器トリートメント、マッサージ、パック、整肌」を、段階を経て習得し、最終的にはお客様に合わせて行えるようにする。理論面の口頭試問も段階を追って入れていく。デモンstrーション→実践→反復練習→チェックを項目ごとに適宜行う。 衛生消毒やクライアントケアなどのサロンワークを実践を通して学ぶ。				
2. 授業内容 (授業コマ数で記入)					
1-2	センター試験について説明【試験要項・カルテ】 スキンスキャナー説明&デモ クレンジング→スキンスキャナー&カウンセリング(カルテ作成)→マッサージ				
3-4	スクラブデモ クレンジング・カウンセリング・スクラブ実践・マッサージ・仕上げ パック剤について説明 カルテ仕上げ				
5-6	クレンジング・カウンセリング+口頭試問・スクラブ(ゴマージュ)・マッサージ+口頭試問・パック デモ・パック実践・仕上げ				
7-8	クレンジング・カウンセリング+口頭試問・エレクトロクレンジングデモ・エレクトロクレンジング 実践・マッサージ+口頭試問・パック+口頭試問・仕上げ				
9-10	クレンジング・チェック・カウンセリング・口頭試問・エレクトロクレンジング+口頭試問 マッサージ・パック・仕上げ イオン導入説明				
11-12	クレンジング・チェック・カウンセリング・口頭試問・Dクレンジング(洗顔or酵素orスクラブ)・ マッサージ+口頭試問・パック・仕上げ				
13-14	前回と同じコース通し <b>モデル決め</b>				
15-16	前回と同じコース通し <b>モデル固定</b>				
17-18	<b>中間試験・センター模擬</b> クレンジング・チェック・カウンセリング・口頭試問・Dクレンジング・ マッサージ+口頭試問・パック・仕上げ				
19-20	模擬見直し				
21-22	<b>センター実技試験</b>				
23-24	コース通し(試験見直し) マッサージ…テクニック向上(ナックリング入れる)				
25-26	コース通し(期末試験練習)全員機器はイオン導入 期末:当日モデル発表のフルコース色々な肌に触れて的確なプラン作成ができるように				
27-28	コース通し:モデルに合わせて選択or苦手なもの		理論の勉強		
29-30	コース通し:モデルに合わせて選択or苦手なもの		理論の勉強		
31-32	コース通し:モデルに合わせて選択		理論の勉強		
33-34	<b>期末試験</b> カウンセリング・クレンジング・Dクレ・機器・マッサージ・パック・仕上げ				3限卒制発表会

### 3. 履修上の注意

事後学習として授業の復習を必ず行う(宿題あり)  
次回の授業で出来なければ自主練習(補講)をする。

### 4. 使用教材(テキスト等)

エステティシヤンのためのフェイシャル実技理論、電気学・機器学 <日本エステティック業協会>  
機器手順プリント、フェイシャルカルテ  
実習備品・化粧品一式、エステ機器(ラルジュ)

### 5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%
- ・中間・期末試験及び検定取得状況 70%

### 6. その他

12月上旬 エステティシヤンセンター試験 実技試験  
2年次 7月上旬 AEA上級認定エステティシヤン実技試験

学科 〈専攻〉	トータルビューティー学科		担当者	丸山陽子	
科目名	エステ機器実習1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	トリートメントに使用するエステ機器を、お客様に合わせて使用できるようにする。 目的や効果、禁忌事項、使用化粧品の成分など理論面も理解する。 エステティシャンセンター試験の合格を目指す。				
◆概要	エステ機器について使用方法、目的や効果、禁忌事項、使用化粧品の成分などを学ぶ。 フェイシャル実技2の授業と合わせて行い、コースの流れで段階を得て習得していく。 デモンストレーション→実践→反復練習→チェックを項目ごとに適宜行う。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	カウンセリング機器 スキンスキャナー				
第2週	同上				
第3週	同上				
第4週	スキンスキャナー・エレクトロクレンジング				
第5週	スキンスキャナー・エレクトロクレンジング イオン導入				
第6週	選択				
第7週	選択				
第8週	選択				
第9週	<b>中間試験・センター模擬</b> モデルに合わせて機器選択(口頭試問)				
第10週	模擬試験見直し				
第11週	<b>センター実技試験</b>				
第12週	コース通し(試験見直し)				
第13週	コース通し(期末試験練習)全員機器はイオン導入				
第14週	コース通し:モデルに合わせて選択or苦手なもの 理論の勉強				
第15週	コース通し:モデルに合わせて選択or苦手なもの 理論の勉強				
第16週	コース通し:モデルに合わせて選択 理論の勉強				
第17週	<b>期末試験</b> クレンジング・カウンセリング・口頭試問・Dクレ・機器・マッサージ・パック・仕上げ				
3. 履修上の注意					
事後学習として授業の復習を必ず行う(宿題あり) 次の授業で出来なければ自主練習(補講)をする。					
4. 使用教材(テキスト等)					
エステティシャンのためのフェイシャル実技理論、電気学・機器学 <日本エステティック業協会> 機器手順プリント、フェイシャルカルテ 実習備品・化粧品一式、エステ機器(ラルジュ)					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%					
・中間・期末試験及び検定取得状況 70%					
6. その他					
12月上旬 エステティシャンセンター試験 実技試験					
2年次 7月上旬 AEA上級認定エステティシャン実技試験					

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	藤原	
科目名	ボディケア実習2		必修・選択	必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ボディトリートメントの基本主義の習得、手技や化粧品目的や効果、禁忌事項、筋肉名を理解する。12月に行われるエステティシャンセンター試験の実技試験合格を目指す。				
◆概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボディコンサルテーションシートの記入(問診、視診、触診)</li> <li>・ボディケア実習1のマッサージのハンドテクニックのスキルアップ</li> <li>・ボディの状態と目的に合わせた施術内容を選定する</li> <li>・ボディの状態と目的に合わせた化粧品選び、ホームケアアドバイスができる</li> </ul>				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	座学 エステティックカウンセリング カルテの書き方、ボディチェック				
第2週	誘導からカウンセリング カルテ提出→添削→返却→見直し マッサージ通し				
第3週	口頭試問				
第4週					
第5週	通しで行う カウンセリング時間10分で納める 試験もモデル固定				
第6週	マッサージ通し 口頭試問				
第7週					
第8週	模擬試験(中間評価)				
第9週	見直し(模擬試験の内容を調整)				
第10週	エステティシャンセンター試験実技試験				
第11週	デコルテマッサージ デモンストレーション 揉捏法のアレンジ(下肢)				
第12週	デコルテマッサージ バックトリートメント(ピーリング、パック) 揉捏法スキルアップ(下肢)				
第13週					
第14週	デコルテマッサージ 揉捏法スキルアップ(下肢) ドレナージュ(下肢背面)				
第15週					
第16週					
第17週	期末テスト				

### 3. 履修上の注意

事後学習として授業の手技範囲の復習を行う  
授業前には手技の流れの確認をしておく

### 4. 使用教材(テキスト等)

AEAテキスト ボディ実技理論  
タオル、ティッシュ、コットンなどの備品  
マッサージオイル等の粧材

### 5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%
- ・中間・期末試験・検定試験状況(実技、筆記) 70%

### 6. その他

12月上旬 エステティシャンセンター試験 実技試験

担当者実務経験: エステティックサロンでエステティシャンとして実務経験あり(日本エステティック業協会認定講師)



学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	小原 美津保	
科目名	ネイル実習1		必修・選択(注記)	選択必修	水1-2
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数 (予定)	36コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネイル技能検定試験3級合格と2級試験に向けてネイルケアとカラーリングの強化をし、ネイルアートの向上、チップ&amp;ラップ技術を理解する</li> <li>・ジェルネイルの基本を学び、2年次の初級試験につなげる</li> </ul>				
◆概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネイルケアの技術向上を目指す</li> <li>・3級試験のネイルケアとカラーリングの赤カラーリングから他のカラー(2級試験指定カラー)が塗れるようにポリッシュの筆ワークを学びカラーリングの技術を高める</li> <li>・爪の修復技術のチップ&amp;ラップを理解する(ネイルグルーやレジンの安全な使い方を学ぶ)</li> <li>・花以外のネイルアートできるように課題を増やしレベルアップを目指す</li> <li>・ジェルとポリッシュの違いをしっかりと身に付ける</li> </ul>				
<b>2. 授業内容 (授業コマ単位で記入)</b>					
1-2	3級試験内容 合格に向けて相モデルで実技練習(時間に意識して技術の向上をする)				
3-4	3級試験内容 合格に向けて相モデルで実技練習(時間に意識して技術の向上をする)				
5-6	3級試験内容 合格に向けて相モデルで実技練習(時間に意識して技術の向上をする)試験直前練習のため、個々にできない所のチェック、荷物確認なども行う。				
7-8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2級技術の爪の修復リペア・チップ&amp;ラップを学ぶ</li> <li>・チップ&amp;ラップの説明とデモ(チップの選び方、貼り付け方、グルー、レジンの使用方法)</li> </ul>				
検定日	<b>ネイリスト技能検定3級</b>				
9-10	チップ&ラップ実技 (チップの貼り付けとアプリケーション工程を学ぶ)				
11-12	チップ&ラップ実技 (前の週に学んだことの復習と工程をしっかりと理解し、削って仕上げまでを覚える)				
13-14	チップ&ラップ実技 復習 できていない所のチェックと確認をし、より完成度を高める				
15-16	<b>中間評価</b> 2級試験のチップ&ラップ				
17-18	2級指定カラーを塗る練習(ケア&カラーリング)				
19-20	ジェルネイルの基本を学ぶ 説明とデモ クリア・赤				
21-22	ジェルネイル赤ジェルの塗り方練習				
23-24	ジェルネイルピーコックの描き方説明とデモ ピーコック実技				
25-26	ジェルネイル赤ジェルとピーコック練習				
27-28	ジェルネイル赤ジェルとピーコック練習				
29-30	2級試験合格に向けて、相モデル練習(時間に意識して技術の向上をする)				
31-32	2級試験合格に向けて、相モデル練習(時間に意識して技術の向上をする)				

33-34	2級試験合格に向けて、相モデル練習(時間に意識して技術の向上をする)
特別授業	<u>期末試験</u> 2級試験の課題を相モデルで行う
(予定)特別授業	<u>2級模擬試験(予定)</u>
特別授業	<u>特別授業① 2級試験練習</u>
3. 履修上の注意	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期は、3級試験合格に向けて各自の練習が必要</li> <li>・3級試験内容・2級試験内容・ジェルの基本など、学ぶ事が増えるため反復の授業が必要となる</li> </ul>	
4. 使用教材(テキスト等)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・JNAテクニカルベーシック</li> <li>・JNAテクニカル(ジェル)</li> <li>・ネイル道具一式・ジェルネイル道具一式</li> </ul>	
5. 単位認定評価方法	
<p>評価基準: 絶対評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)15%</li> <li>・授業内評価 25% ・中間・期末試験状況 50%</li> </ul> <p>※目標検定を取得した場合は、C評価以上が付く(出席不足を除く)</p>	
6. その他	
<p>担当者実務経験: 現在ネイルサロン経営者であり、日本ネイリスト協会における本部認定講師の資格を有するネイリストである。多くのお客様施術の事例や、ネイリスト技能検定試験試験官の経験からネイリスト技能検定試験3級合格と2級試験に向けての技術を指導する科目である</p>	

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	藤原	
科目名	基礎実技		必修・選択	選択	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ネイリストに必要な技術の習得には、正しい知識と基礎的実技理論が必要であり、これらの知識を学び学術的裏付けをふまえて、安全で適切な技術を学ぶ。 ネイリスト技能検定3級合格を目指す。				
◆概要	2級課題のチップラップ、アート（検定前は通し練習を行う） ・ネイリストに必要な爪の構造、皮膚学、生理解剖学、爪の病気、衛生消毒などの知識を理解し実技実践を習得する。 ・ネイリスト技能検定試験合格に向け、筆記試験対策と実技試験対策を行う。				
第1週	3級検定試験の通し練習 ラウンドの形、プッシャー、ニッパーの使い方 カラーリング、フラワーアート				
第2週	3級検定試験の通し練習 ラウンドの形、プッシャー、ニッパーの使い方 カラーリング、フラワーアート				
第3週	3級検定試験の通し練習 ラウンドの形、プッシャー、ニッパーの使い方 カラーリング、フラワーアート				
第4週	3級検定試験の通し練習 ラウンドの形、プッシャー、ニッパーの使い方 カラーリング、フラワーアート 3級検定10/24				
第5週	2級に向けてのネイルケアの技術の向上 ニッパーの角度やプッシュバックとアップ カラーリングの技術を上げる				
第6週	2級に向けてのネイルケアの技術の向上 ニッパーの角度やプッシュバックとアップ カラーリングの技術を上げる 2級アート練習 過去のアート課題を参考にアートの技術を上げる				
第7週	2級に向けてのネイルケアの技術の向上 ニッパーの角度やプッシュバックとアップ カラーリングの技術を上げる 2級アート練習 過去のアート課題を参考にアートの技術を上げる				
第8週	2級に向けてのネイルケアの技術の向上 ニッパーの角度やプッシュバックとアップ カラーリングの技術を上げる 2級アート練習 過去のアート課題を参考にアートの技術を上げる				
第9週	中間試験 片手ケアカラーリング・アート 4限目はアート練習				
第10週	2級カラー指定色練習～アート練習				
第11週	チップラップ実技 自分の指に作成				
第12週	2級後半試験の流れの説明～実技練習				
第13週	ジェルネイル赤～ピーコック				
第14週	ジェルネイル赤～ピーコック				

第15週	2級試験に向けて相モデル練習
第16週	2級試験に向けて相モデル練習
第17週	期末試験は行わない 2級試験に向けて相モデル練習
3. 履修上の注意	
<p>相モデルで行う際の各自の爪の事前準備は宿題とする。  技術の習得を安定させるためにネイルチップへの課題練習を宿題とする  (提出期限を次授業で提出が原則)</p>	
4. 使用教材(テキスト等)	
<p>JNAテクニカルシステムベーシック  ネイリスト技能検定試験試験要綱  ネイル・ジェルネイル道具一式</p>	
5. 単位認定評価方法	
<p>評価基準: 絶対評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)30%</li> <li>・中間試験・検定結果状況(実技、筆記) 30% ・授業内での技術評価 30%</li> </ul>	
6. その他	
<p>4月の2級検定を受験する学生は、2月の授業終了後春休みの特別授業に参加する。</p>	

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	山田 佳代子	
科目名	アドバンスメイクアップ		必修・選択(注記)	選択必修	金1-2
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数 (予定)	34コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	シュウ ウエムラ メイクアップ技術検定試験の合格、及び、カウンセリングを通して要望に沿ったメイクをすることが出来る。				
◆概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手指消毒、スキンケアを行った後、ベースメイクからフルメイクを仕上げます。</li> <li>・検定テキストに沿ったシュウウエムラの正確な技術を行う。</li> <li>・各テクニックの目的をしっかりと意識し、効果的な技術を行う。</li> <li>・添え手の使用や目線の誘導、必要な声掛けなど、モデルへの配慮を忘れない。</li> <li>・シュウウエムラのメイク技術者として適切な立ち振る舞いをする。</li> </ul>				
<b>2. 授業内容 (コマ数で記入)</b>					
1-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習(相モデル)【時間を計る】</li> <li>・事前準備(10分) ・スキンケアテクニック + メイクアップテクニック(50分) ・小テスト</li> </ul>				
3-4	・同上				
5-6	・同上				
7-8	・同上				
9-10	・同上				
11-12	・同上				
13-14	・同上				
15-16	<b>中間試験</b> ・事前準備 ・スキンケアテクニック ・メイクアップテクニック ・筆記試験				
17-18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習(相モデル)【時間を計る】</li> <li>・事前準備(10分) ・スキンケアテクニック + メイクアップテクニック(50分) ・小テスト</li> </ul>				
19-20	・同上				
21-22	・同上				
23-24	・同上				
25-26	・同上				
27-28	検定前、4限目に補講 (2日間)				
<b>検定</b>	<b>shu uemura メイクアップ技術検定試験</b>				
29-30	(カウンセリングメイク) ・カウンセリングをしてデッサンを作成 ・お客様のご希望に沿ったメイクをし、スピーチをする				
31-32	(カウンセリングメイク) ・カウンセリングをしてデッサンを作成 ・お客様のご希望に沿ったメイクをし、スピーチをする				
33-34	<b>期末試験</b> ・カウンセリングメイク(デッサン、スピーチ含む)				

### 3. 履修上の注意

- ・事後学習として復習を行う。 ・授業開始前には手技の確認をしておく。
- ・小テストについては、スキンケアテクニックからテキスト順に出題する。出題範囲は前の週に告知する。尚、時間に余裕があった際に実施する事とする。

### 4. 使用教材(テキスト等)

- ・シュウウエムラメイクアップ技術検定試験テキスト ・メイク道具一式 ・タオル3本(白) ・ティッシュ
- ・コットン ・ダッカードール ・ハサミ ・カッター

### 5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)10%
- ・授業内実技評価 10% ・中間試験 + 検定試験 + 期末試験状況 70%

### 6. その他

担当者実務経験: 大手化粧品メーカーでビューティーカウンセラーとして肌質、年齢、骨格など、それぞれのお客様に合わせたメイクアップの技術の経験を生かし、シュウウエムラのメイクアップ化粧品の特徴と適切な使用法、色、形、配置バランスなど、シュウウエムラのメイク基礎を学ぶ科目である。現在はエステティックサロン経営者でもあり、シュウウエムラの認定講師でもある。

学科 〈専攻〉	トータルビューティー学科	担当者	北野 加奈子		
科目名	ヘアアレンジ2	必修・選択(注記)	必修	月3-4	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	1年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	前期に学んだ基礎を生かし、更にレベルの高いスタイルを習得する。				
◆概要	ウィッグから相モデルへ移行。対人間である事を意識して感覚・気遣い・バランスを考えスタイルを作り上げていく。				
<b>2. 授業内容 (コマ数で記入)</b>					
1-2	重ね夜会				
3-4	重ね夜会アレンジ				
5-6	洋装ヘア				
7-8	和装ヘア				
9-10	洋装アップスタイルアレンジ				
11-12	洋装アップスタイルアレンジ				
13-14	和装アップスタイルアレンジ				
15-16	和装アップスタイルアレンジ				
17-18	<b>中間評価</b>				
19-20	<b>相モデル</b> カールアイロン・編み込み・ピン留め				
21-22	アップスタイルアレンジ				
23-24	アップスタイルアレンジ				
25-26	期末試験練習 洋装ヘア(正面メインのアップスタイル)				
27-28	期末試験練習 洋装ヘア				
29-30	期末試験練習 洋装ヘア				
31-32	期末試験練習 洋装ヘア				
33-34	<b>期末試験</b>				
<b>3. 履修上の注意</b>					
用具の取り扱い(乱雑に扱わない) 苦手な部分は特に自習(復習)し反復練習をし克服する					
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b>					
アップスタイルの基本(テキスト) ヘア道具一式(ブラシ・コーム・ヘアピン・アイロンなど)					
<b>5. 単位認定評価方法</b>					
評価基準: 絶対評価 ・出席による評価 10% ・授業への取り組み10% ・授業内評価20% ・中間・期末試験状況 60%					
<b>6. その他</b>					
担当者実務経験: 現在美容室経営者であり、ブライダルヘアースタ일리ストとして多くの現場経験より、人間の骨格や頭皮の感覚を理解し応用技術を取り入れ多くのアップスタイルの技術指導を行う。					

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	丸山陽子	月4・金4
科目名	解剖生理学		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期前半
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	エステティシャンに必要な身体についての基礎知識を身に付け、技術やアドバイスに活かせるようにする。 エステティシャンセンター試験、AEA上級エステティシャン筆記試験の合格を目指す。				
◆概要	エステティックは、「人の皮膚を清潔にし若しくは美化し、体型を整え、または体重を減ずるための施術を行うこと」と定義されています。エステティシャンは人々の身体に触れ、心身の健康や美しさを追求する職業です。身体について細胞単位から、器官の成り立ち、筋肉や骨の構造など、お客様の悩みや要望に応える技術やアドバイスが出来るようにするための知識を身に付けます。				
2. 授業内容 (コマ数で記入)					
1	1章 人体～細胞・組織・器官 <b>宿題 区分名称を覚える</b>				
2	2章 骨格				
3	3章 筋 ……運動学で行った部分は確認程度				
4	3-4章 筋～消化器				
5	5章 呼吸器				
6	6章 泌尿器				
7	7章 内分泌				
8	7-8章 内分泌～生殖器				
9	9章 循環器				
10	9-10章 循環器－血液				
11	11章 感覚器				
12	12章 神経				
13	12-13章 神経～心身生理学……脳				
14	14章 ホメオスタシス				
15	15章 免疫				
16	16-18章 ストレス～スキントッチの効果				
17	期末試験				
3. 履修上の注意					
事後学習として授業の復習を必ず行う(宿題の問題集) 次回の授業で答え合わせから授業を行う。					
4. 使用教材(テキスト等)					
エステティシャンのための解剖生理学 <日本エステティック業協会> まとめプリント(各章、筋肉図) エステティシャンセンター試験 筆記試験例題集<日本エステティック試験センター>					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・中間・期末試験及び検定取得状況 70%					
6. その他					
2月中旬 エステティシャンセンター試験 筆記試験 2年次 9月上旬 AEA上級認定エステティシャン筆記試験					



学科 ＜専攻＞	トータルビューティー学科	担当者	丸山陽子	月4・金4
科目名	エステティック応用理論	必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目			
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>				
◆到達目標	前期に行った理論を、より詳しく学び、理論的にエステティックを理解し、技術やアドバイスに活かせるようにする。エステティシャンセンター試験筆記試験合格			
◆概要	電気学・・・美容機器について理論をおさらいする。 センター試験問題集に沿って要点の確認、問題集を繰り返し解く 確認テストでは8割以上を合格とし、クリアするまで行う。			
<b>2. 授業内容 (コマ数で記入)</b>				
1	電気学 教科書要点を確認			
2	電気学			
3	要点確認 カウンセリング			
4	要点確認 カウンセリング			
5	要点確認 WAX			
6	要点確認 WAX			
7	確認テスト 皮膚・解剖 力試し			
8	確認テスト 全科目100問 力試し			
9	確認テスト 皮膚・化粧			
10	確認テスト FA・心身・カウンセリング			
11	確認テスト 解剖・救急・サロマネ			
12	確認テスト 関連・電気・衛生・BO			
13	確認テスト 栄養・概論・運動・WAX			
14	確認テスト 苦手部分			
15	模擬試験1			
16	模擬試験2 ・ 期末試験			
17	エステティックセンター試験			
<b>3. 履修上の注意</b>				
事前学習として問題集を必ず行い、確認テストに合格する。 確認テストは合格80%とし、出来るまで繰り返し行う。				
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b>				
AEA教科書一式＜日本エステティック業協会＞ エステティシャンセンター試験 筆記試験例題集＜日本エステティック試験センター＞				
<b>5. 単位認定評価方法</b>				
評価基準: 絶対評価				
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%				
・中間・期末試験及び検定取得状況 70%				
<b>6. その他</b>				
2月21日 エステティシャンセンター試験 筆記試験				

学科コード	B1
-------	----

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	小林千尋	
科目名	キャリアプランニング2		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	MIT普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	キャリアプランニング1をベースに、就職活動をより円滑に進めるための実務の実践的レベルを目指す。				
◆概要	面接と電話応対を中心に、求人票の見方や企業情報の収集にも力を入れる。送付状や封筒の記入など実践直前の内容となる。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	ビジネスマナーと面接について				
第2週	面接練習①				
第3週	面接練習②				
第4週	面接練習③				
第5週	電話応対①				
第6週	電話応対②				
第7週	電話応対③				
第8週	リクナビ登録と就活講座				
第9週	中間テスト 一般教養とSPI				
第10週	リクルートスタイル講習会				
第11週	就活用写真撮影				
第12週	企業情報収集とビジネスマナー				
第13週	就職ラリー準備				
第14週	送付状、お礼状、封筒の記入①				
第15週	送付状、お礼状、封筒の記入②				
第16週	求職票の作成				
第17週	期末テスト 求職票の作成(清書)				
3. 履修上の注意					
筆記用具を持参					
4. 使用教材(テキスト等)					
プリント教材					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価OR相対評価					
絶対評価で中間・期末テスト、授業態度、出席状況、課題提出・内容					
6. その他					
「リクナビ登録・就活講座」、「リクルートスタイル講習会」、「就活写真撮影」は外部との調整上、スケジュールが前後したり、その影響で他のスケジュールが動く場合があります。					

学科コード	B1
-------	----

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	堀内 貴彦	
科目名	情報リテラシー2		必修・選択	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	演習	年次	1
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標	マイクロソフトEXCELでビジネス資料等の作成ができる 日本情報処理検定協会主催の「表計算検定2級」以上の検定に合格する
◆概要	表計算検定の問題を解きながら、効率的なデータ入力、ワークシート編集、関数を利用した計算式の入力、グラフ作成等について習得する。2月に個々の習熟度に応じた級の検定を受験する。なお、12月の検定は希望受験とする。

2. 授業内容 (週単位で記入)

第1週	検定問題対策 個別問題演習
第2週	検定問題対策 個別問題演習
第3週	検定問題対策 個別問題演習
第4週	表計算検定3級程度の問題解法 個別問題演習
第5週	表計算検定3級程度の問題解法 個別問題演習
第6週	表計算検定3級程度の問題解法 個別問題演習
第7週	表計算検定3級程度の問題解法 個別問題演習
第8週	表計算検定準2級程度の問題解法 個別問題演習
第9週	中間試験 表計算検定準2級程度の問題
第10週	表計算検定2級程度の問題解法 個別問題演習
第11週	表計算検定2級程度の問題解法 個別問題演習
第12週	表計算検定準1級程度の問題解法 個別問題演習
第13週	表計算検定1級程度の問題解法 個別問題演習
第14週	表計算検定1級程度の問題解法 個別問題演習

第15週	表計算検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習
第16週	表計算検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習
第17週	表計算検定（期末試験兼ねる）
3. 履修上の注意	
<p>課題の提出あり(MITファイルサーバへ)          欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を次回の授業日までに提出する</p>	
4. 使用教材(テキスト等)	
<p>マイクロソフトExcel使用          授業配布プリント          検定過去問題のプリント</p>	
5. 単位認定評価方法	
<p>評価基準:          絶対評価を原則とする 出席10点、授業内評価(授業態度・課題提出状況)40点、          中間または期末試験評価40点、授業期間中の検定取得への取り組み10点 の100点満点</p>	
6. その他	
<p>※注 検定取得への取り組みについては上位級合格はもちろん、各自の到達度により評価する          また、各内容については、習熟状況により変更する場合があります</p>	

学科コード	B1
-------	----

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	藤原聖子	
科目名	総合演習1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1
総授業数(予定)	20コマ	授業場所	教室・各実習室	前・後期	前後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	一般教養や専門学習など社会で役立つ知識や技術を学ぶ。また、特別活動として、学校生活ルールやクラス、学校行事を通して協調性や計画性を学ぶ。				
◆概要	クラス担任の指導によりホームルーム活動を行います。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週 ～ 第38週	一般教養や学科別の専門知識技術の学習 学生の手引き、学生生活ルールの確認 クラス、学校行事及び計画 等				
3. 履修上の注意					
出席時間数等は授業内で指示します。					
4. 使用教材(テキスト等)					
学生の手引き等					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 出席時間、取り組みにより評価					
6. その他					

学科 〈専攻〉	トータルビューティー学科		担当者	小林千尋	
科目名	キャリアプランニング3		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	MIT普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	本学入学の最大の目的である「希望する業種・職種で職に就く」こと、その後必要となる労働法と社会保険の基礎を学ぶ。				
◆概要	1年次で学習したことを再度確認する。履歴書の改正、電話対応・面接の再練習、企業情報の提供など、目標到達のためのサポートを行う。労働条件等などに加えて、今注目の働き方についても考える。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	キャリアプランニング1、キャリアプランニング2を踏まえて、就活方法、企業・求人情報の確認				
第2週	電話対応、面接を再確認、就活の注意事項、ブラック企業				
第3週	学生の就活とそのサポート 求人票の見方を再度確認				
第4週	学生の就活とそのサポート 「働くこと」と労働者とは				
第5週	学生の就活とそのサポート 労働者を保護する法律と労務契約				
第6週	学生の就活とそのサポート 書面による労働条件				
第7週	学生の就活とそのサポート 内定と内定取消				
第8週	学生の就活とそのサポート 試用期間と就業規則				
第9週	中間テスト 労働法と社会保険				
第10週	学生の就活とそのサポート 労働時間、時間外労働、割増賃金				
第11週	学生の就活とそのサポート 休日・休暇、有給休暇、休憩時間				
第12週	学生の就活とそのサポート 賃金、最低賃金、退職金、賞与				
第13週	学生の就活とそのサポート 社会保険①				
第14週	学生と就活とそのサポート 社会保険②				
第15週	学生の就活とそのサポート 産前産後休業、育児休業、介護休業				
第16週	学生の就活とそのサポート 解雇、退職				
第17週	期末テスト (課題)				
3. 履修上の注意					
筆記用具を持参					
4. 使用教材(テキスト等)					
就活手帳、プリント教材					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価OR相対評価					
絶対評価で中間・期末テスト(課題)、授業態度、出席状況					
6. その他					

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	堀内 貴彦	
科目名	情報リテラシー3		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	2
総授業数(予定)	16コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	マイクロソフトのPowerPointでプレゼンテーション用のスライドが作成できる 日本情報処理検定協会主催の「プレゼンテーション検定2級」以上の検定に合格する				
◆概要	プレゼンテーション検定の問題を解きながら、PowerPointの基本的な操作・スライド作成方法を習得する。プレゼンテーション検定1級または2級(習熟度により受験級を選択)を受験する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	PowerPointの初期設定、基本的な使い方 プレゼンテーション検定3級程度の問題の解法				
第2週	プレゼンテーション検定3級程度の問題解法				
第3週	プレゼンテーション検定2級程度の問題解法				
第4週	プレゼンテーション検定2級程度の問題演習				
第5週	プレゼンテーション検定1級程度の問題解法				
第6週	プレゼンテーション検定1級程度の問題演習				
第7週	プレゼンテーション検定問題演習				
第8週	期末試験 プレゼンテーション2級程度の問題				
3. 履修上の注意					
PowerPointを使用する 毎授業ごとに課題の提出あり(MITファイルサーバへ) 欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を次回の授業日までに提出する					
4. 使用教材(テキスト等)					
参考書 30時間マスターOFFICE2016 検定過去問題のプリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 絶対評価を原則とする 出席10点、授業内評価(授業態度・課題提出状況)40点、 期末試験評価40点、授業期間中の検定取得への取り組み10点 の100点満点 ※注					
6. その他					
※注 検定取得への取り組みについては上位級合格はもちろん、各自の到達度により評価する また、各内容については、習熟状況により変更する場合がある					

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	堀内 貴彦	
科目名	プレゼンテーション		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	2
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	マイクロソフトのPowerPointを利用し発表用のスライドが作成できる 作成したスライドを使ってプレゼンテーション(発表)ができる				
◆概要	前半は検定問題演習とプレゼンテーション作成の練習や画像加工等を学習し、後半は課題 テーマのプレゼンテーションを作成し発表をする。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	プレゼンテーション検定問題演習 プレゼンテーション作成				
第2週	プレゼンテーション検定問題演習 プレゼンテーション作成				
第3週	プレゼンテーション検定問題演習 プレゼンテーション作成				
第4週	プレゼンテーション検定問題演習(検定予定) プレゼンテーション作成				
第5週	課題プレゼンテーションスライド作成および発表準備				
第6週	課題プレゼンテーションスライド作成および発表準備				
第7週	課題プレゼンテーションスライド作成および発表準備				
第8週	課題プレゼンテーションスライド作成および発表準備				
第9週	課題発表				
3. 履修上の注意					
PowerPointを使用する 毎授業ごとに課題の提出あり(MITファイルサーバへ) 欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を次回の授業日までに提出する					
4. 使用教材(テキスト等)					
参考書 30時間マスターOFFICE2016 検定過去問題のプリント					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 絶対評価を原則とする 出席10点、授業内評価(授業態度・課題提出状況)30点、 課題プレゼンテーション評価50点、授業期間中の検定取得への取り組み10点 の100点満点 ※注					
6. その他					
※注 検定取得への取り組みについては上位級合格はもちろん、各自の到達度により評価する また、各内容については、習熟状況により変更する場合がある					



学科 ＜専攻＞	トータルビューティー学科	担当者	北野 加奈子		
科目名	ヘアアレンジ3	必修・選択(注記)	選択必修	月3-4	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数 (予定)	16コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	前期前半
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標 ウィッグとは違う人間の骨格や頭皮の感覚を理解し、アップスタイルを習得する。					
◆概要 1年次に学んだ基本を生かし、相モデルでスタイルを作り上げていく。期末試験の課題決めではフォトコン撮影時のシルエットを意識し決めていく。					
2. 授業内容 (コマ数で記入)					
1-2	和装ヘア				
3-4	和装ヘア				
5-6	期末試験練習				
7-8	期末試験練習				
9-10	期末試験練習				
11-12	期末試験練習				
13-14	<b>期末試験</b> 試験終了後、浴衣ヘア練習				
15-16	浴衣ヘア・着付け				
3. 履修上の注意					
火傷注意。モデルへの気遣い。テーブル上の整理整頓。					
4. 使用教材(テキスト等)					
セット&アップ(テキスト)					
ヘアー道具一式(ブラシ・コーム・ヘアピン・アイロンなど)					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み10% ・授業内評価20%					
・中間・期末試験状況 60%					
6. その他					
担当者実務経験: 現在美容室経営者であり、ブライダルヘアースタylistとして多くの現場経験より、人間の骨格や頭皮の感覚を理解し応用技術を取り入れ多くのアップスタイルの技術指導を行う。					

学科 ＜専攻＞	トータルビューティー学科		担当者	水城規子	
科目名	プロフェッショナルメイク		必修・選択(注記)	必修	木1-2
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	前期後半
企業連携科目	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の基礎をベースに様々な手技を実践、また色の持つ意味などの理論も加え応用力を身に付ける事が出来る。顔の印象をメイクで変えるイメージメイク術を学ぶ</li> <li>・技術はもちろんだが、接客、敬語など来年戦力に成れる様に実社会をイメージした授業にする</li> </ul>				
◆概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業開始前に『13の徳目』を元に今日一日1何に力を入れるか発表し承認してから始める事に寄り人前ではっきり敬語を使って喋る練習と意識をもって取り掛かる習慣化する</li> <li>・リップはリップだけに使う物ではないなど、固定観念に縛られない発想力を付ける。</li> <li>・アイカラー、ファンデーションのグラデーションの難関、アイブローが顔の印象の80%を締める為集中してレッスンする。・海外のトレンドメイク、ブライダルの特別授業から様々な美容文化を学ぶ。・色のもつイメージではデッサンと文章化する事により表現したい事的设计図づくりをし表面化する。・写真と同じメイクを作るでは観察力と他者との捉え方の相違について観察する</li> </ul>				
<b>2. 授業内容 (コマ数単位で記入)</b>					
1-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション ・自己紹介 ・授業の流れと捉え方、ルール</li> <li>・道具の扱い方 ・スキンケアの復習 ・30分ずつ相モデルの実技</li> </ul>				
3-4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真を元に奇抜メイクの実技</li> </ul>				
5-6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベースメイク(コントロールカラー)の理論と実技</li> <li>・ファンデーションの2色使い の理論と実技</li> <li>・アイブローの理論と実技</li> </ul>				
7-8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファンデーションの2色使い ・アイブローおさらい</li> <li>・色の持つイメージの説明～デッサン。</li> <li>・色の組み合わせ～アイカラー(1縦のグラデーション)～デッサン</li> </ul>				
9-10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイライン・リップ・チークの理論と実技</li> <li>・コントロールカラー～2色使いファンデ、アイブローおさらい</li> <li>・アイカラー1同系色と2ポイントカラー片目ずつ ・シェーディングとハイライト・ローライト</li> </ul>				
11-12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和装ブライダル特別授業</li> </ul>				
13-14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハリウッドコントアメイク、シェーディング、アイライン</li> <li>・写真と同じメイク デッサンから実技(1)</li> </ul>				
15-16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真と同じメイク デッサンから実技(2)</li> <li>・期末テスト対策</li> </ul>				
17-18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>期末試験</b></li> </ul>				
<b>3. 履修上の注意</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に準備したブラシ、カラー関係、ファンデーション他使用するものは学校にあるもの。</li> <li>・オリジナルテキストをファイリングするものを各自用意。</li> <li>・毎時間スタートから10分間、13の徳目の読み合わせをする</li> </ul>					
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリジナルテキスト(シュウウエムラ、嶋田千秋、他参考資料)</li> </ul>					

## 5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(意欲・向上心・授業態度)20%
- ・期末メイク理論筆記試験 20% ・期末試験状況 50%

## 6. その他

担当者実務経験: 現在美容室経営者であり、フォトスタジオでブライダルの和装着付けや数多くのヘアメイクを担当している経験より、顔立ちに対応できる印象別メイクやデザインメイクを指導する科目である。

学科 ＜専攻＞	トータルビューティー学科		担当者	小原 美津保	
科目名	上級ネイル実習		必修・選択(注記)	選択必修	火1-3
単位数	3単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	51コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネイル技能検定1級合格に向けて、スカルプチュアと複合アートの技術をしっかり理解する</li> <li>・デザインスカルプチュアを学び、アートの幅を広げ卒業制作や卒業後のサロンワークに活かせる様にする・2級試験合格を目指す</li> </ul>				
◆概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定1級の内容のスカルプチュア・チップオーバーレイ・複合アートの作成</li> <li>・エンボスアートを学び、デザインスカルプチュアの作成をする</li> <li>・すべての技術の完成度を高められるように、繰り返し練習をし試験合格に向けて模擬試験も行い、再確認をする。</li> </ul>				
<b>2. 授業内容 (コマ数単位で記入)</b>					
1-3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1級試験 スカルプチュア技術の説明をし、試験の内容を理解する</li> <li>・スカルプの道具説明、筆のおろしかた、ミクスチュアの作成</li> </ul>				
4-6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チップオーバーレイのデモ&amp;実技</li> <li>・チップの貼り付けからアプリケーションまでを学ぶ</li> </ul>				
7-9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チップオーバーレイアプリケーションの練習</li> <li>・削り方から仕上げまでのデモと練習</li> </ul>				
10-12	チップオーバーレイの練習をし、ミクスチュアの作り方、のせ方をしっかり理解する				
13-15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チップオーバーレイ復習</li> <li>・スカルプチュアのデモ&amp;説明</li> </ul>				
16-18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スカルプチュアのフォームつけを学ぶ</li> <li>・相モデルでフォームつけをしっかりと理解する</li> </ul>				
19-21	スカルプチュアの作成				
22-23	<b>中間評価</b>				
24	<b>ジェルネイル検定初級</b>				
25-27	スカルプチュアの作成				
28-30	スカルプチュアの作成				
31-33	スカルプチュアの作成				
34-36	スカルプチュアの作成				
37-39	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スカルプチュアの作成 フォームつけやミクスチュアの再確認</li> <li>・1級試験要項を元に複合アートを学ぶ、説明とデモ後・・・作成</li> </ul>				
40-42	<ul style="list-style-type: none"> <li>チップオーバーレイ・スカルプチュア復習</li> <li>・夏休みの課題</li> </ul>				
43-45	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スカルプチュアの作成 フォームつけやミクスチュアの再確認</li> <li>・1級試験要項を元に複合アートを学ぶ、説明とデモ後・・・作成</li> </ul>				
46-48	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末試験は授業内評価にし、スカルプチュアの練習</li> <li>・模擬試験が行えるように試験内容をしっかりと理解する</li> </ul>				
49-51	<b>期末評価</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・期末試験は授業内評価にし、スカルプチュアの練習,試験内容をしっかりと理解する</li> </ul>				

### 3. 履修上の注意

ネイルの基本から上級編に変わり、難しい技術が増えるため、しっかりノートをまとめ反復して課題を行う

### 4. 使用教材(テキスト等)

- ・JNAテクニカルアドバンス
- ・ネイル道具一式

### 5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)15%
- ・授業内評価 25% ・中間・期末試験状況 50%

※目標検定を取得した場合は、C評価以上が付く(出席不足を除く)

### 6. その他

担当者実務経験: 現在ネイルサロン経営者であり、日本ネイリスト協会における本部認定講師の資格を有するネイリストである。多くのお客様施術の事例や、ネイリスト技能検定試験試験官の経験からネイリスト技能検定試験2級合格と1級試験に向けての技術を指導する科目である。

学科 〈専攻〉	トータルビューティー学科		担当者	小原 美津保	
科目名	ジェルネイル実習1		必修・選択(注記)	選択必修	水3
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	1年次にジェルネイルの基本を習得しているため、初級・中級試験に向けて技術の向上を目指す 中級試験の課題のフレンチネイルやグラデーション、長さだしまで習得し、サロンワーク実習でお客様にジェルネイルが安全に施術できることを目指す				
◆概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初級試験課題の赤ジェル・ピーコックの技術向上</li> <li>・中級試験の課題のフレンチ、グラデーション、ジェルオフ、ジェルイクステンションを学ぶ</li> <li>・中級はサロンワークでお客様から一番人気のフレンチやグラデーション技術になるため、しっかりと理解し、サロンワーク実習につなげる</li> <li>・ジェルイクステンションのフォームつけを理解し、アクリルスカルプチュアと関連して学ぶ</li> </ul>				
<b>2. 授業内容 (コマ数単位で記入)</b>					
1	1年時に習ったジェル検定初級課題の、ピーコック、赤ジェルの復習。できていない所のチェック、デモなど。				
2	ジェル検定初級課題の相モデルで練習				
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェルネイル検定中級試験内容の説明(試験要項)</li> <li>・グラデーションの説明とデモ</li> </ul>				
4	中級試験課題グラデーションの技術練習				
5	中級試験課題フレンチネイルの説明とデモと実技				
6	グラデーションとフレンチの練習				
7	グラデーションとフレンチの練習				
8	<b>中間評価</b> ジェル初級 技術検定(予定)				
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェルイクステンションの説明とデモ</li> <li>・フォームつけについてしっかり理解できるまで学ぶ(上級ネイル授業と関連して覚える)</li> </ul>				
10	ジェルイクステンションの練習				
11	ジェルイクステンションの練習 フォームつけやイクステンションジェルの筆ワーク、塗布量の再確認				
12	ジェルイクステンションの練習				
13	ジェルネイルアート				
14	ジェルネイルアート				
15	ジェルネイルアート				
16	中級課題の相モデル練習				
17	<b>期末評価</b> ジェル検定中級試験課題のチェック				

### 3. 履修上の注意

- ・ジェルエクステンション技術がとても難しいため、しっかり理解できるまで反復練習や課題を行う
- ・90分の授業では全員が相モデルができない日もある

### 4. 使用教材(テキスト等)

- ・JNAジェルネイルテクニカル
- ・ジェルネイル道具一式

### 5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)15%
- ・授業内評価 25% ・中間・期末試験状況 50%

※目標検定を取得した場合は、C評価以上が付く(出席不足を除く)

### 6. その他

担当者実務経験: 現在ネイルサロン経営者であり、日本ネイリスト協会における本部認定講師の資格を有するネイリストである。多くのお客様施術の事例を生かしジェルネイルの特性、ジェルネイル中級試験に必要な技術やサロンワークに活かせるアートなどを指導する科目である。

学科 <専攻>	トータルビューティー学科	担当者	丸山陽子	火1-3 FA
科目名	上級エステティック実習1	必修・選択	選択必修	
単位数	3単位	授業形態	実習	年次 2年次
総授業数(予定)	51コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期 前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目			
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>				
◆到達目標	お客様の状態に合ったマッサージ、アドバイスを行えるように、1年次よりも高度な技術やカウンセリング力を身に付ける。 AEA上級認定エステティシヤンの合格を目指す。			
◆概要	1年次に学んだフェイシャルトリートメントをよりブラッシュアップし、応用技術を学ぶ。よりの確かなコース設定や説明を行う為に、様々な肌質やトラブル、解剖、化粧品についてもより詳しく学ぶ。カルテ作成、実技、口頭試問を繰り返し行う。 試験終了後はサロンワークの練習をし、お客様に入れるようサロン実務を学ぶ。			
<b>2. 授業内容 (週単位で記入)</b>				
第1週	授業内容説明 AEA上級試験の内容確認 1年次の技術確認、応用マッサージ(デコルテ)をプラスする。 口頭試問対策(プリント)			
第2週	試験の流れに沿って技術練習(カウンセリング重点的に) C→カウンセリング→マッサージ→パック→仕上 口頭試問強化、カルテ提出			
第3週	同上			
第4週	同上			
第5週	同上			
第6週	同上			
第7週	同上(本番通りの時間に入れる) モデルカルテを完成させる			
第8週	同上(本番通りの時間に入れる) 弱点強化		3限ジェル検定	
第9週	<b>中間試験</b> AEA上級FA模擬試験			
第10週	模擬試験見直し			
第11週	本番通り練習 弱点見直し			
第12週	<b>AEA上級FA試験</b>			
第13週	試験技術振り返り 応用トリートメント(パック)			
第14週	スチューデントサロン準備			
第15週	スチューデントサロンメニューの練習 AEA筆記試験対策			
第16週	スチューデントサロンメニューの練習 AEA筆記試験対策			
第17週	<b>期末試験</b> 筆記試験。本試験の実技点数に筆記試験をプラスして評価する。 スチューデントサロンメニューの練習			
<b>3. 履修上の注意</b>				
事後学習として授業の復習を必ず行う(宿題あり) 次回の授業で出来なければ自主練習(補講)をする。				



#### 4. 使用教材(テキスト等)

エステティシヤンのためのフェイシャル実技理論・皮膚科学・栄養学 <日本エステティック業協会>  
機器手順プリント、フェイシャルカルテ  
実習備品・化粧品一式、エステ機器(ラルジュ)

#### 5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%
- ・中間・期末試験及び検定取得状況 70%

#### 6. その他

9:30~11:45 前半、11:45~12:50 昼休み、12:50~15:05 後半

学科コード	B2
-------	----

学科 ＜専攻＞	トータルビューティー学科	担当者	丸山陽子	金1-3 BO
科目名	上級エステティック実習2	必修・選択	選択必修	
単位数	3単位	授業形態	実習	年次 2年次
総授業数(予定)	51コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期 前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目			
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>				
◆到達目標	お客様の状態に合ったマッサージ、アドバイスを行えるように、1年次よりも高度な技術やカウンセリング力を身に付ける。 AEA上級認定エステティシヤンの合格を目指す。			
◆概要	1年次に学んだボディマッサージをよりブラッシュアップし、応用技術を学ぶ。よりの確なコース設定や説明を行う為に、様々な肌質やトラブル、解剖、化粧品についてもより詳しく学ぶ。カルテ作成、実技、口頭試問を繰り返し行う。 試験終了後はサロンワークの練習をし、お客様に入れるようサロン実務を学ぶ。			
<b>2. 授業内容 (週単位で記入)</b>				
第1週	AEA上級試験の内容確認 1年次の技術確認、応用マッサージをプラスする。 口頭試問対策(プリント)			
第2週	試験の流れに沿って技術練習(カウンセリング重点的に) カウンセリング→マッサージ 口頭試問強化、カルテ提出			
第3週	同上			
第4週	同上			
第5週	同上			
第6週	同上(本番通りの時間に入れる) モデルカルテを完成させる			
第7週	同上(本番通りの時間に入れる) 弱点強化			
第8週	<b>中間試験</b> AEA上級BO模擬試験			
第9週	模擬試験見直し			
第10週	本番通り練習 弱点見直し			
第11週	<b>AEA上級BO試験</b>			
第12週	試験技術振り返り 応用トリートメント(ボディトリートメント)			
第13週	応用トリートメント(ボディトリートメント)			
第14週	バイブレーション機器(理論&実技) 脚 AEA筆記試験対策			
第15週	バイブレーション機器 脚→背中 AEA筆記試験対策			
第16週	バイブレーション機器 脚→背中 <b>3限 AEA筆記試験</b>			
第17週	<b>期末試験</b> 筆記試験。本試験の実技点数に筆記試験をプラスして評価する。 スチューデントサロンメニューの練習			
<b>3. 履修上の注意</b>				
事後学習として授業の復習を必ず行う(宿題あり) 次回の授業で出来なければ自主練習(補講)をする。				
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b>				
エステティシヤンのためのボディ実技理論・運動生理学・栄養学<日本エステティック業協会> 筋肉図プリント、ボディカルテ 実習備品・化粧品一式				

## 5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%
- ・中間・期末試験及び検定取得状況 70%

## 6. その他

9:30～11:45 前半、11:45～12:50 昼休み、12:50～15:05 後半

AEA上級筆記試験 9月1日～15日

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	藤原	
科目名	サロンワーク実習1		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期後半
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	お客様に接客するうえで必要な知識やマナー、技術が実践に活かせることを目標とする 学外サロンワーク実習へ向けサービス対応、ネイルデザイン、技術の向上を目指す				
◆概要	現場で必要とされる技術やサービスの実際を知ること、今後の重点学習項目をより実践的に捉える。 学内サロンの実習において業務経験するためのスキルを身に付ける				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	アート練習(パーツののせ方、ホロの埋め込みなど)トップジェルのポイント 宿題・・・前期に習ったアート				
第2週	アート練習(パーツののせ方、ホロの埋め込みなど)トップジェルのポイント 宿題・・・前期に習ったアート				
第3週	ハンドジェル ケア～ベースの塗布のポイント 宿題・・・前期に習ったアート				
第4週	ハンドジェル ケア～ベースの塗布 ～カラーリング ケアの重要性・・・リフティングの原因となる				
第5週	フットジェル (消毒～ケア～カラーリング～アート)				
第6週	フットジェル (消毒～ケア～カラーリング～アート) 宿題・・・サンプル案デッサン2つ考えてくる				
第7週	ハンドジェル フットジェル練習 サンプル練習				
第8週	ハンドジェル フットジェル練習 サンプル練習				
第9週	ハンドジェル フットジェル練習 サンプル練習				
3. 履修上の注意					
事前学習でデザインの収集や研究を各自行う。 相モデル練習のケアは各自事前課題とする。 事後学習として苦手なデザインは宿題とし、次回授業で提出する。					
4. 使用教材(テキスト等)					
ネイル道具一式 プリント ジェルネイルテキスト ネイルデザイン本					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)45%					
・授業内の技術評価 45%					
6. その他					

学科コード	B2
-------	----

学科 ＜専攻＞	トータルビューティー学科	担当者	丸山陽子	水2
科目名	応用実技理論1(エステ)・理論	必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目			

1. 授業の到達目的と概要

◆到達目標 AEA上級認定エステティシャン試験の口頭試問に対応できる知識の習得。知識を深め、お客様のトラブルの状態に対応できる応用力を身に付ける。  
AEA上級認定エステティシャン試験合格

◆概要 口頭試問の出題範囲のプリントをもとに、AEAのテキストを用い、知識を身に付ける。  
・使用している化粧品成分を調べ、効果と共に覚える。  
・顔、身体の筋肉の場所、名前を覚える。  
・様々な肌トラブルについて、症状、原因、適応トリートメント、ホームケア(食事、運動、スキンケア)について学ぶ。

2. 授業内容

第1回	インフォメーション 教材配布 口頭試問について説明(プリント配布)
第2回	口頭試問対策、化粧品について・・・成分効果等調べる
第3回	同上 <b>【宿題】肌タイプ、トラブルについてまとめてくる</b>
第4回	口頭試問対策、肌タイプ、トラブルについてまとめたものを発表
第5回	口頭試問対策、トリートメントについて
第6回	口頭試問対策、トリートメントについて 終ってないところは宿題
第7回	<b>中間試験</b> 上級試験理論(口頭試問の内容)ALL筆記
第8回	中間試験見直し
第9回	口頭試問対策(各自苦手力所)
第10回	口頭試問対策(各自苦手力所)
第11回	口頭試問対策(各自苦手力所)
第12回	AEA上級筆記試験対策
第13回	AEA上級筆記試験対策
第14回	AEA上級筆記試験対策
第15回	AEA上級筆記試験対策
第16回	AEA上級筆記試験対策
第17回	<b>期末試験</b>

3. 履修上の注意

各自で自分なりにまとめて、自分の資料をしっかりと作ること。

4. 使用教材(テキスト等)

皮膚科学、解剖生理学、運動学、栄養学、FA理論、BO理論＜日本エステティック業協会＞

5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%
- ・中間・期末試験及び検定取得状況 70%

6. その他

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	丸山陽子	水3
科目名	応用実技理論2(化粧品)		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	エステティックに関連する化粧品やアロマセラピーの知識を深め、お客様のトラブルの状態に対応できる応用力を身に付ける。 アロマセラピー検定1・2級合格、化粧品検定2・3級合格				
◆概要	化粧品検定のテキストを用い、知識を身に付ける。問題集を用い、知識を反復して覚える。 3級のWEB受験の後、2級範囲に入る。 化粧品検定の範囲が終わり次第、アロマセラピー検定のテキストに移る。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	日本化粧品検定対策テキスト PART.1 まちがえがちな美容知識をチェック 【3級受験範囲】				
第2週	同上				
第3週	同上				
第4週	<b>化粧品検定3級・WEB受験</b>				
第5週	日本化粧品検定対策テキスト PART.2 皮膚・肌について 【2級受験範囲】				
第6週	日本化粧品検定対策テキスト PART.3 肌の手入れと正しい知識 「メイクアップの基本テクニック」は、最後に行う。 【2級受験範囲】				
第7週	<b>中間試験</b>				
第8週	<b>ジェル検定</b>				
第9週	日本化粧品検定対策テキスト PART.4 美肌・美ボディ生活を送るには 【2級受験範囲】				
第10週	同上				
第11週	同上				
第12週	復習				
第13週	アロマセラピー検定公式テキスト Capter1 基本 【香りテスト】			ジェル初級筆記	
第14週	アロマセラピー検定公式テキスト Capter2 精油について 【香りテスト】				
第15週	アロマセラピー検定公式テキスト Capter3 安全性 【香りテスト】				
第16週	アロマセラピー検定公式テキスト Capter4 実践(理論のみ) 【香りテスト】				
第17週	<b>期末試験</b> 化粧品2級範囲テスト				

### 3. 履修上の注意

事後学習として授業の復習を必ず行う(宿題あり)  
次回の授業で出来なければ自主練習(補講)をする。

### 4. 使用教材(テキスト等)

日本化粧品検定2・3級対策テキスト<日本化粧品検定協会>  
日本化粧品検定2級対策問題集<日本化粧品検定協会>  
アロマテラピー検定公式テキスト・問題集<日本アロマ環境協会>

### 5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%
- ・中間・期末試験及び検定取得状況 70%

### 6. その他

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	清水	
科目名	応用実技理論1(色彩)		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	配色の基本、色もたらす心理的効果、生活の中での色もたらす効果などを学び、色のコーディネートや日常における色の活用方法を理解する。 色彩検定3級に合格する。				
◆概要	色のはたらきや性質、「色」の表し方や混色理論などの基礎知識、色もたらす心理的効果、カラーコーディネート基礎を学ぶ。配色(色の組み合わせ)については、主に「PCCS」(色彩体系の一つ)をもとに学んでいく。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	色彩心理 色のはたらき、光と色(光とは)				
第2週	色彩心理 光と色(光の性質、眼のしくみ)				
第3週	色彩心理 光と色(眼のしくみ、照明)				
第4週	色彩心理 光と色(混色)				
第5週	色彩心理 色の表示(色の分類と三属性)				
第6週	色の表示(色の分類と三属性)、当色相面と色立体				
第7週	色の表示(PCCS)				
第8週	中間試験 色の表示(PCCS) PCCSカラーダイヤル作成				
第9週	PCCSカラーダイヤル作成 色彩心理(色の心理的効果)				
第10週	色彩心理(色の心理的効果)				
第11週	色彩心理(色の心理的効果)				
第12週	色彩調和(色相から配色を考える)				
第13週	色彩調和(色相から配色を考える)				
第14週	色彩調和(トーンから配色を考える)				
第15週	色彩調和(色相とトーンを組み合わせる配色を考える)				
第16週	色彩調和(配色の基本技法) 配色イメージ				
第17週	期末試験				



### 3. 履修上の注意

課題が期日までに提出できない場合、基準に満たない場合は、単位不認定となる場合がある。  
授業に出席していても、私語や居眠りが多い場合はその時間を欠席とみなすことがある。

### 4. 使用教材(テキスト等)

『色彩検定公式テキスト3級編』 新配色カード  
12色程度の色鉛筆 はさみ のり

### 5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

授業態度20%、中間・期末試験50%、課題・小テスト30%

ただし、課題未提出や出席状況に応じて評価は変動する。

### 6. その他

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	藤原	
科目名	ネイル実習2		必修・選択	選択必修	
単位数	3単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	51コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	サロンワークで通用するネイルケア、カラーリング、チップラップ、ネイルアートに関する知識と技術を習得し、1級課題のアクリルイクステンションの技術を習得する				
◆概要	サロンワークで通用するプロとしての技術を習得するために、ネイルケア、カラーリング、ネイルアート 1級対応のスカルプチュアでの人工爪・立体3Dアート 検定に必要な筆記試験対策				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	道具配布 アート練習 ネイルケア カラーリング(パール系ポリッシュの塗り方)				
第2週	1級試験対応 チップオーバーレイ練習 1級アート				
第3週	1級試験対応 チップオーバーレイ練習 1級アート				
第4週	1級試験対応 チップオーバーレイ練習 1級アート				
第5週	1級試験対応 スカルプチュア練習 1級アート				
第6週	1級試験対応 スカルプチュア練習 1級アート				
第7週	1級試験対応 スカルプチュア練習 1級アート				
第8週	1級試験対応 スカルプチュア練習 1級アート				
第9週	中間試験				
第10週	スカルプチュアの作成 1級3Dアート練習				
第11週	スカルプチュアの作成 1級3Dアート練習				
第12週	スカルプチュアの作成 1級3Dアート練習				
第13週	スカルプチュアの作成 1級3Dアート練習				
第14週	スカルプチュアの作成 1級3Dアート練習				
第15週	スカルプチュアの作成 1級3Dアート練習				
第16週	スカルプチュアの作成 1級3Dアート練習				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
ネイルの基本から上級編に変わり、難しい技術が増えるため、しっかりノートをまとめ反復して課題を行う					
4. 使用教材(テキスト等)					
・JNAテクニカルアドバンス ・ネイル道具一式					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%					
・授業内評価 30% ・中間・期末・検定試験状況 40%					
6. その他					

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	藤原	
科目名	ジェルネイル実習2		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	16コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	基本のジェルネイルを習得する ジェルネイル技能検定初級合格を目指す 検定以降は中級試験につなげる技術を学ぶ				
◆概要	初級試験に必要なカラーリングとピーコックを習得する。 フレンチやカラーグラデーション、ジェルオフ、サロンワークに人気なアート、柄を学ぶ。 10月初めに予定している校外サロンワークに向けて練習				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	ジェルネイル赤ジェルの塗り方練習 ジェルネイルピーコック				
第2週	ジェルネイル赤ジェルの塗り方練習 ピーコック実技 * ネイルケア宿題				
第3週	相モデルでジェルカラーリング ピーコック実技 * ジェルカラーリング片手宿題				
第4週	ジェルオフ練習 ネイルケア * ネイルケア宿題				
第5週	相モデルでジェルカラーリング ピーコック実技 * ネイルケア宿題				
第6週	初級通し練習 * ネイルケア宿題				
第7週	初級通し練習 6/8, 9初級検定 * ネイルケア宿題				
第8週	カラーグラデーション・フレンチ練習				
第9週	カラーグラデーション・フレンチ練習(フレンチは逆フレ、ハーフ、斜め) ラメラインを入れる				
第10週	カラーグラデーション・フレンチ練習(フレンチは逆フレ、ハーフ、斜め) ラメラインを入れる				
第11週	カラーグラデーション ラメグラデーション ストーンののせ方 ベース・トップの仕上がりを意識しハイポイントなどテクニックを練習				
第12週	タイダイ柄(べっ甲、大理石風、ターコイズ風など)				
第13週	タイダイ柄(べっ甲、大理石風、ターコイズ風など)				
第14週	フラワー(オーバル筆) ラインの書き方 テクニック				
第15週	各アート練習(個人的に苦手なものを繰り返し習得する)				
第16週	各アート練習(個人的に苦手なものを繰り返し習得する)				

第17週	期末テスト 課題のアート
<b>3. 履修上の注意</b> 相モデルで行う際の各自の爪の事前準備は宿題とする。 技術の習得を安定させるためにネイルチップへの課題練習を宿題とする(原則、宿題は次授業時とする)	
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b> JNAテクニカルシステムベーシック、ジェルネイル(日本ネイリスト協会) ネイルデザイン本 UVランプ	
<b>5. 単位認定評価方法</b> 評価基準: 絶対評価 ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20% ・中間・期末試験状況(実技、筆記) 70%	
<b>6. その他</b> 	

学科 〈専攻〉	トータルビューティー学科		担当者	小原 美津保	
科目名	ネイル総合実習1		必修・選択(注記)	選択必修	火1-2
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数 (予定)	16コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	後期 前半
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネイル技能検定1級合格に向けて、スカルプチュアと複合アートの技術をしっかり理解する</li> <li>・デザインスカルプチュアを学び、アートの幅を広げ卒業制作や卒業後のサロンワークに活かせる様にする</li> </ul>				
◆概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定1級の内容のスカルプチュア・チップオーバーレイ・複合アートの作成</li> <li>・エンボスアートを学び、デザインスカルプチュアの作成をする</li> <li>・すべての技術の完成度を高められるように、繰り返し練習をし試験合格に向けて模擬試験も行い、再確認をする。</li> </ul>				
2. 授業内容 (コマ数単位で記入)					
1-2	1級試験内容の繰り返し練習(個々にできない技術の向上をする)				
3-4	1級試験内容の繰り返し練習(個々にできない技術の向上をする)				
5-6	1級試験前の技術チェック				
7-8	エンボスアートを学ぶ デモ&実技				
9-10	前の週に習ったエンボスアートを使いデザインスカルプチュアを学ぶ デモ&実技				
11-12	3Dアートの作成 (花・薔薇・リボン)などを学ぶ デモ&実技				
13-14	期末試験内容の練習(1級技術の復習と最後の確認)				
15-16	最終技術チェック				
17-18	<b>期末試験</b> or 評価				
3. 履修上の注意					
1級試験前は、相モデル練習など各自で練習を繰り返し行う					
4. 使用教材(テキスト等)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・JNAテクニカルアドバンス</li> <li>・ネイル道具一式</li> </ul>					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)15%</li> <li>・授業内評価 25% ・中間・期末試験状況 50%</li> </ul>					
※目標検定を取得した場合は、C評価以上が付く(出席不足を除く)					
6. その他					
担当者実務経験: 現在ネイルサロン経営者であり、日本ネイリスト協会における本部認定講師の資格を有するネイリストである。多くのお客様施術の事例や、ネイリスト技能検定試験試験官の経験からネイリスト技能検定試験1級試験に必要な技術とデザインスカルプチュアネイルの技術指導を行う。					

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	藤原	
科目名	ネイル総合実習2		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	16コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期前半
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標 ネイリスト技能検定1級合格を目指す					
◆概要 1級課題のアクリルイクステンション・ミックスメディアアート サロンワークに必要なマシンオフ、マシンケアの技術の習得					
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	1級練習(スカルプ・チップオーバーレイ・ミックスメディア)不得手なところを徹底的にし反復し、すべての技術の完成度を高められるように行う				
第2週	1級練習(スカルプ・チップオーバーレイ・ミックスメディア)不得手なところを徹底的にし反復し、すべての技術の完成度を高められるように行う				
第3週	1級練習(スカルプ・チップオーバーレイ・ミックスメディア)不得手なところを徹底的にし反復し、すべての技術の完成度を高められるように行う				
第4週	マシンオフ、マシンケア				
第5週	マシンオフ、マシンケア				
第6週	マシンオフ、マシンケア ジェルアートの向上				
第7週	マシンオフ、マシンケア ジェルアートの向上				
第8週	期末試験 ジェルアート ケアを含む				
3. 履修上の注意					
相モデルで行う際の各自の爪の事前準備は宿題とする。					
4. 使用教材(テキスト等)					
ネイル道具一式 プリント ジェルネイルテキスト ネイリスト技能検定試験試験要綱					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%					
・中間・期末試験及び検定取得状況 70%					
6. その他					
10月24日 ネイリスト技能検定試験1級					

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	丸山陽子	木1-2
科目名	エステ機器実習2		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	後期前半
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	お客様の状態に合わせたコース設定、アドバイスを行えるように、様々なボディ機器を覚える。12月からのサロンワークでお客様に提供できるようにする。				
◆概要	BOTリートメント機器(バイブレーション機器・低周波機器・吸引機器)について使用方法、禁忌事項、目的、効果、適応を学ぶ 安全にかつ効果的に行えるよう技術練習を行う。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	低周波機器(理論&実技) 前面(腹部+大腿)→機械操作・通電				
第2週	低周波機器 前面(腹部+大腿)→機械操作・通電				
第3週	低周波機器 背面(背部+大腿)・(臀部・大腿)				
第4週	低周波機器 背面(背部+大腿)・(臀部・大腿)				
第5週	低周波機器 全ヶ所				
第6週	G5、低周波(苦手力所)				
第7週	G5、低周波・マッサージ (モデルに合わせて)				
第8週	<b>期末試験</b> 低周波3パターン(1ヶ所通電)+G5(脚、背)				
3. 履修上の注意					
事後学習として授業の復習を必ず行う(宿題あり) 次回の授業で出来なければ自主練習(補講)をする。					
4. 使用教材(テキスト等)					
エステティシヤンのためのボディ実技理論・電気学・機器学<日本エステティック業協会> 筋肉図プリント、実習備品・トリートメント機器備品一式					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%					
・中間・期末試験及び検定取得状況 70%					
6. その他					

学科 ＜専攻＞	トータルビューティー学科		担当者	水城規子	
科目名	プロフェッショナルメイク応用		必修・選択(注記)	選択必修	木1-2
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	後期前半
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期で習得した様々な手技を生かしヘア、メイク、コスチュームのトータルビューティーのコンテストという形で総合力を養う</li> <li>・モデル(お客様)や周りの人との協調性を磨く</li> </ul>				
◆概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期で習得した方法の中から駆使しコンテストのテーマに沿った作品作りをする。</li> <li>・テーマからまずは自分のイメージ力を確かめ、更にイメージを膨らませ、総合的に自分の作品を作りこむ。コンテストの表彰1位から3位まで順位をつけて共に勝つために全員のレベルを上げていく</li> <li>・前期より引き続き、授業開始前に『13の徳目』を元に今日一日何に力を入れるか発表し承認してから始める事により人前ではっきり敬語を使って喋る練習と意識をもって取り掛かる習慣化する</li> </ul>				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
1-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末テスト振り返り</li> <li>・コンテストテーマ発表</li> <li>・コンテスト作品作りのイメージ画を作る～モデル選出</li> </ul>				
3-4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル決定～発表</li> <li>・デザイン作り～相モデル決定。1パターン作ってみる</li> </ul>				
5-6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相モデルでヘアを作る</li> </ul>				
7-8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相モデルでヘアメイク作り、この路線で良いか確認。OKなら作りこみ</li> </ul>				
9-10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相モデルでヘアからメイクまで通し(タイム図る)</li> </ul>				
11-12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相モデルでヘアからメイクまで通し～コスチュームも持参</li> </ul>				
13-14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>期末試験</b></li> <li>・本番同様相モデルでヘアからメイクまで通し～コスチュームも持参</li> </ul>				
15-18 4コマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォトコン撮影会</li> </ul>				
3. 履修上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンテストで自分の使用しているものが良ければ場合によっては申告で許可する</li> <li>・コンテストのコスチュームはモデルや仲間から借りる事もある</li> <li>・毎時間スタートから10分間、13の徳目の読み合わせをする</li> </ul>					
4. 使用教材(テキスト等)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリジナルテキスト(シュウウエムラ、嶋田千秋、他参考資料)</li> </ul>					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%</li> <li>・中間・期末試験状況 70%</li> </ul>					
6. その他					
<p>担当者実務経験: 現在美容室経営者であり、フォトスタジオでブライダルの和装着付けや数多くのヘアメイクを担当している経験より、前期で習得したヘアメイクを生かしイメージを作品化できるよう総合的な作品を作る技術指導を行う。</p>					



学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	藤原	
科目名	応用セラピー1 (リフレクソロジー)		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	後期前半
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	リフレクソロジーのもたらす効果や足の反射区と関連する器官の機能を理解し、基礎知識・技術を習得する。後期前半のカリキュラムでの学外実習で、お客様に実践できるレベルにする。				
◆概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・足のリフレクソロジーを行うに必要な知識として解剖学、反射区と器官の関係性、器官の働きを理解する。</li> <li>・技術者に必要なクライアントケアと、アロマの精油を実践的に活用できるようにする。</li> <li>・リフレに必要な数種類の手指の使い方、適応体制の重要性を学ぶ。</li> <li>・基本手技を身に付けるため毎授業デモンストレーションを行い相モデルにて実践する。</li> </ul>				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	<p>座学:リフレクソロジーとは(トリートメントのもたらす効果や足の反射区と関連する器官の機能について) 足の解剖学(骨格)(器官の働きと対応)                      フットバスの使い方、効果、アロマの精油の選び方説明                      フットリフレクソロジーコースを組み立てる。35分+10分のカウンセリングの内容と流れ</p> <p>実践:誘導～アロマフットスプレー消毒～ドレーピングタオルの扱い方～左足 デモンストレーション、相モデルで行う。足裏 手技(スタンダード)</p>				
第2週	<p>実践:アロマフットスプレー消毒～ドレーピングタオルの扱い方～左足 デモンストレーション、相モデルで行う。足裏 手技(スタンダード、ジョイント、スライド、サンド)                      反射区の名称を理解し覚える</p>				
第3週	<p>実践:アロマフットスプレー消毒～ドレーピングタオルの扱い方～右足 デモンストレーション、相モデルで行う。足裏 手技(スタンダード、ジョイント、スライド、サンド)                      反射区の名称を理解し覚える</p>				
第4週	実践:両足				
第5週	実践:レッグトリートメント デモンストレーション～実践				
第6週	実践:レッグトリートメント デモンストレーション～実践				
第7週	技術チェック:両足通し練習 体感チェック:反射区に対して指の角度、力加減、体位の状態など(口頭で反射区の名前が言える)				
第8週	同上				
第9週	技術チェック:両足通し練習 体感チェック:反射区に対して指の角度、力加減、体位の状態など(口頭で反射区の名前が言える) ※体感チェック不合格者 追試				
3. 履修上の注意					
事後学習として授業の手技範囲の復習を行う 授業前には手技の流れを確認しておく					
4. 使用教材(テキスト等)					
教材プリント・フットバス・アロマオイル・キャリアオイル・他					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席による評価 10%</li> <li>・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%</li> <li>・中間・期末試験(技術チェック)状況 70%</li> </ul>					
6. その他					

学科 〈専攻〉	トータルビューティー学科	担当者	丸山陽子		
科目名	応用セラピー2(アロマ)	必修・選択	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期前半
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	アロマセラピー検定1・2級合格 化粧品検定1・2級合格 その他、東洋のセラピーや、応用技術の体験				
◆概要	検定テキストを用い、知識を身に付ける。問題集を用い、知識を反復して覚える。 2級1級両方学び、併願受験する アロマセラピー検定の範囲が終わり次第、化粧品検定の問題演習に移る。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1回	アロマセラピー検定公式テキスト Capter5 メカニズム【香りテスト】				
第2回	アロマセラピー検定公式テキスト Capter6 ビューティー&ヘルスケア【香りテスト】				
第3回	アロマセラピー検定公式テキスト Capter6 ビューティー&ヘルスケア【香りテスト】				
第4回	アロマセラピー検定公式テキスト Capter7 歴史【香りテスト】				
第5回	アロマセラピー検定公式テキスト Capter7 歴史【香りテスト】				
第6回	アロマセラピー検定公式テキスト Capter8 法律【香りテスト】				
第7回	精油のプロフィール【香りテスト】				
第8回					
第9回					
第10回					
第11回	<b>アロマセラピー検定模擬試験 期末評価として</b>				
第12回	アロマコスメ作り				
第13回	化粧品検定対策 問題集を解く				
第14回	化粧品検定対策 問題集を解く				
第15回	<b>化粧品検定模擬試験 期末評価として</b>				
第16回	トリートメント				
第17回	アロマコスメ作り				
3. 履修上の注意					
事後学習として授業の復習を必ず行う(宿題あり)					
4. 使用教材(テキスト等)					
アロマセラピー検定公式テキスト・問題集<日本アロマ環境協会> エステティシヤンのための東洋・西洋のセラピー<日本エステティック業協会> エッセンシャルオイル、トリートメント備品一式					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%					
・中間・期末試験及び検定取得状況 70%					
6. その他					

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	清水	
科目名	応用実技理論2(色彩)		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	2
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	配色の基本、色もたらす心理的効果、生活の中での色もたらす効果などを学び、色のコーディネートや日常における色の活用方法を理解する。 色彩検定3級に合格する。				
◆概要	色のはたらきや性質、「色」の表し方や混色理論などの基礎知識、色もたらす心理的効果、カラーコーディネート基礎を学ぶ。配色(色の組み合わせ)については、主に「PCCS」(色彩体系の一つ)をもとに学んでいく。検定合格に向けて、過去問題を中心に問題演習に多く取り組む。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	ファッションと色彩				
第2週	ファッションと色彩				
第3週	インテリアと色彩・色名 過去問解答・解説				
第4週	過去問解答・解説				
第5週	過去問解答・解説				
第6週	過去問解答・解説				
第7週	過去問解答・解説 期末試験				
第8週	本試験答え合わせと解答解説 期末課題				
第9週	期末課題				
第10週	期末課題				
3. 履修上の注意					
課題が期日までに提出できない場合、基準に満たない場合は、単位不認定となる場合がある。 授業に出席していても、私語や居眠りが多い場合はその時間を欠席とみなすことがある。					
4. 使用教材(テキスト等)					
『A・F・T色彩検定公式テキスト3級編』 新配色カード 12色程度の色鉛筆 はさみ のり					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 授業態度20%、中間・期末試験50%、課題・小テスト30% ただし、課題未提出や出席状況に応じて評価は変動する。 期末試験の得点が低くD評価だった場合、本試験合格で単位認定する。					
6. その他					

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	藤原・丸山 金1-3	
科目名	サロンワーク実習2		必修・選択	選択必修	
単位数	3単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	51コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	お客様に満足いただける技術・接客技能を身に付ける。 全員が同じ技術力と接客力を身に付けること。 卒業後すぐ就職先にて活躍できるように高い意識をもってサロンワークをする。				
◆概要	ハンドジェルネイル、フットジェルネイル、ボディリラックストリートメント、フェイシャルトリートメントのコースの内容で一般のお客様に施術 毎回お客様にいただく評価表をもとにフィードバックし、改善していく 後半はエステ機器を活用するコースと、リフレクソロジーのコースが追加される				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	ジェルネイルサンプル→実践練習				
第2週	フェイシャルトリートメント、ボディトリートメントコース練習(技術の見直し) 【ロールプレイング】				
第3週	お出迎え～ご案内～カウンセリング・コース、デザイン設定～コース～ご案内(お茶出し)・お見送りまで				
第4週					
第5週	サロンワーク実践				
第6週					
第7週					
第8週					
第9週					
第10週	中間評価				
第11週	エステティック機器トリートメント、リフレクソロジーのコース開始				
第12週					
第13週					
第14週					
第15週					
第16週					
第17週	期末評価 振り返り				
3. 履修上の注意					
全員がお客様対応できるように不得手なところは自主的に練習すること お客様の立場となって考える思考を持つこと					
4. 使用教材 (テキスト等)					
サロンワーク教材一式(カルテ、評価表、メニュー、化粧品、ネイル道具、など) AEAテキスト(サロンマネジメント) パソコン					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 20% ・習得度(カウンセリング・技術) 70%					
6. その他					

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	藤原・丸山	
科目名	卒業制作		必修・選択	選択必修	
単位数	6単位	授業形態	実習	年次	2年次
総授業数(予定)	102コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	2年間学んだことを活かし、興味・研究を深める。発想力を養い、技術をさらに高めクオリティの高い作品を制作する。パワーポイントにまとめプレゼンテーションする				
◆概要	各自が極めたい内容の研究・制作に取り組む 作品の写真撮影 パワーポイントはわかりやすく興味深く作り上げる				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	卒業研究・制作概論 ①卒業研究・制作とは②発表までの流れ③テーマについて				
第2週	卒業研究・制作テーマ決め ①過去の卒業研究・制作②注意点				
第3週	卒業研究・制作テーマ決め ①テーマ②研究内容				
第4週	卒業研究・制作テーマ決め ①テーマ②研究内容				
第5週	卒業研究日程表の作成 ①研究・制作期間 ②作成期日 ③パワーポイント資料作成期日				
第6週	④発表練習期間 ⑤発表当日				
第7週	研究・制作に必要な資料・材料を調べ、必要なものをリストアップ・購入 ①インターネット ②テキスト・専門雑誌				
第8週	研究・制作に必要な資料・材料を調べ、必要なものをリストアップ・購入 研究・制作 にとりかかる				
第9週	①研究・制作 ②制作物の途中経過、完成写真の撮り方				
第10週	【中間過程評価】				
第11週	研究・制作 ①研究・制作				
第12週	②制作物の途中経過、完成写真の撮り方				
第13週	③パワーポイント作成				
第14週					
第15週	研究・制作 ①研究・制作物の直し ②制作物の途中経過、完成写真撮影・現像 ③パワーポイント作成				
第16週	④発表練習(発表時間13分/声の大きさ、話すスピード、内容確認、スライド調整) ⑤作品のディスプレイ				
第17週	発表練習(発表時間10分前後/声の大きさ、話すスピード、内容確認、スライド調整) 卒業研究・制作発表 ①202教室にて発表 ②評価表の配布 (一年生、二年生、関係教職員)				

### 3. 履修上の注意

2年間学んだことを活かし研究・制作を進める。

発表当日は評価表を用いて評価してもらおう

①興味深い内容であったか ②テーマに即した内容であったか・テーマに即した面白さがあったか ③調査が十分に行われていたか・制作物の完成度やクオリティーの高さはあったか ④分析は十分にされていたか・制作物に技術力あるいは努力度が見られたか  
⑤明快な結論が示されたか・制作内容のボリュームは充実していたか ⑥今後の課題や展望が示されたか・オリジナリティに優れた制作物であったか ⑦落ち着いて発表していたか⑧聞き取りやすかったか ⑨図・表等が効果的に私用されていたか⑩スライドの枚数・切り替えが適切であったか ⑪発表全体を通して好感がもてたか ⑫発表時間が適切であったか ⑬総合評価

### 4. 使用教材(テキスト等)

パソコン(インターネット) 専門雑誌など  
各自必要備品

### 5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢)20%

・完成度(内容・発表) 70%

### 6. その他

学科コード	B2
-------	----

学科 <専攻>	トータルビューティー学科		担当者	丸山陽子	
科目名	総合演習2		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	2
総授業数(予定)	20コマ	授業場所	教室・各実習室	前・後期	前後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	一般教養や専門学習など社会で役立つ知識や技術を学ぶ。また、特別活動として、学校生活ルールやクラス、学校行事を通して協調性や計画性を学ぶ。				
◆概要	クラス担任の指導によりホームルーム活動を行います。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週 ～ 第38週	一般教養や学科別の専門知識技術の学習 学生の手引き、学生生活ルールの確認 クラス、学校行事及び計画 等				
3. 履修上の注意					
出席時間数等は授業内で指示します。					
4. 使用教材(テキスト等)					
学生の手引き等					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 出席時間、取り組みにより評価					
6. その他					